Ainoura, Well-being in Daily Life for Next Generation

相浦地区 未来まちづくり構想

令和6年9月

相浦のこれからこれからの未来

相浦未来まちパートナーズ
AINOURA FUTURE TOWN PERTNERS

は　じ　め　に

「西九州」の真ん中で、未来に向かって羽ばたけ！「相浦」

- 佐世保市は、明治 35 年の市政施行以来、日本有数の港湾都市として、また、県北地域や西九州圏域における中核都市として発展してきた所です。
- 一方で、急速な人口減少と少子高齢化の進展、若者が大半を占める転出超過、生産年齢人口や担い手の不足等による地域活力の低下が懸念されています。
- そこで、様々な社会環境・産業構造の変化に対応した「新しい時代のまちづくり」が求められており、佐世保市も多様な地域資源を活用し、まちの魅力を磨き上げ、「子育て」「文化」「地域資源」「産業」を 4 つの柱とする「『選ばれるまち SASEBO』を創るシティブランディング・プロジェクト」が始動しました。
- 相浦地区は佐世保市の北西部に位置し、地域のシンボル・愛宕山の麓で開催される愛宕市での賑わい等、古くから港町として栄えてきました。その後、長崎県立大学や総合グラウンドが整備され、本市の文教地区として「地域核」、「副都心」としての役割を担っています。
- しかし、時代の変遷とともに相浦地区の商業の中心であった商店街が衰退し、総合グラウンドも全体として老朽化が激しく、その前面には担い手の高齢化で利活用が進まない広大な農地が存在する等、地域課題が顕在化してきました。
- このような状況の中で、宮島市長の公約「９９の政策」に「スポーツや文教機能を活かした相浦地域の複合開発を推進」と掲げられていたこともあり、「スポーツ施設の再整備を契機とした相浦地区未来まちづくり構想」の作成を行ったものです。
- 構想の検討にあたっては、長崎県立大学や総合グラウンド、農用地の周辺を「コアゾーン」と位置づけ、多様な地元意見の分析や民間事業者へのサウンディング等の成果を踏まえつつ、作業を進めることとなりました。
- 相浦地区は、佐世保市内でとくに子ども～若者～子育て世代が集まる基盤があり、超高齢化社会の到来に備え、子どもたちに選ばれるまちへと成長させていくことで佐世保市の人口減少に歯止めをかける「先駆け」となる必要があります。
- さらに、西九州自動車道の拡幅・延伸を好機と捉え、県北地域・西九州圏域のハブとして地域の未来を牽引し、創造するまちづくりを目指していきます。

令和６年９月４日　相浦未来まちパートナーズ

目　次

1　相浦地区未来まちづくり構想の策定にあたって　3
1.1　相浦地区未来まちづくり構想の背景・目的
1.2　相浦地区未来まちづくり構想の検討にあたって
2　未来まちづくりのビジョン・ミッション・コンセプト・ストラテジー　9
2.1　ビジョン（将来像）
2.2　ミッション（使命）
2.3　コンセプト（方向性）
2.4　ストラテジー（基本方針）
3　コアゾーンの概況分析・テーマ・構成　14
3.1　コアゾーンの設定と概況分析
3.2　土地利用全体のテーマ（方向性）
3.3　導き出された構成（ゾーニング）
4　相浦未来まちワークショップ　24
4.1　開催の背景・目的
4.2　当日の開催概要
4.3　実施方法
4.4　相浦未来まちのコンセプト
4.5　住民意見
4.6　今後の課題
5　概況分析の詳細　44
5.1　文教施設の立地状況
5.2　人口・人員別世帯構成比
5.3　長崎県立大学及び学生の状況
5.4　陸上自衛隊相浦駐屯地の状況
5.5　西九州自動車道の整備状況
5.6　農地高度利用可能性調査（農政課・R4,2）
5.7　スポーツ施設の整備に係る基本調査（政策経営課・R6,3）
5.8　関係資料①：体育施設等の利用状況（スポーツ振興課・R6,4）
5.9　関係資料②：相浦川洪水ハザードマップ（佐世保市河川課・H30,6）
6　作業部会等の開催状況(報告)　62

1　相浦地区未来まちづくり構想の策定にあたって

1.1　相浦地区未来まちづくり構想の背景・目的

〇相浦地区の歩み

- 相浦地区の歴史は古く、相浦川沿いの俵ヶ浦半島に至る相神浦谷周辺は、国内屈指の旧石器･縄文遺跡の密集地帯である。泉福寺洞窟･岩下洞穴などの岩陰がある他、膨大な量の縄文土器・石鍋・石器類が出土し、相浦川流域は古来より人々の生活の拠点、また、対外貿易においても拠点であった事が判明している。
- 平安・鎌倉時代には相神浦氏の拠点、室町時代から宗家松浦氏の拠点であり、平安時代の半ば頃に武辺胤明氏が開拓したと伝えられてきた。平安時代末期は、松浦党と呼ばれる武士たちが勢力を伸ばし、その後、松浦党は相浦を拠点とする宗家松浦氏と平戸を拠点とする平戸松浦氏に分かれ、両者は戦国時代に戦を繰り返したが、その間、宗家松浦氏は武辺城や飯盛城の築城など相浦の開発に取り組み、城下町が形成されるに至った。
- 江戸時代に入ると川下新田を皮切りに相浦地区の開拓が進み、当時は海である日野地区では、平戸藩から迎えた日野七族によって塩田が開拓されたことから日野村という地名がついたとされている。幕末には石炭業で成功した草刈太一左衛門により真申新田や大潟新田が開拓され、平戸藩の貴重な穀倉地帯として藩財政を助けた。
- 近代においては相浦港が石炭積み出し港として発展し、昭和初期から昭和 25 年頃まで石炭の積み出しに従事する人夫であふれかえった。
- 戦前戦後は、相浦発電所の建設や棚方の日産炭鉱開鉱、大潟新田への相浦海兵団の開設などにより地域の商工業が発展し、相浦商店街も大いに賑わったが基幹産業である炭鉱が閉山した後には相浦港、そして商店街は衰退傾向となった。
- 昭和 42 年、長崎県立国際経済大学(現在の長崎県立大学佐世保校)が建設･開学し、その翌年の昭和 43 年に総合グラウンドが整備され、相浦地区が佐世保市及び県北地域における文教エリアとしての礎を築くこととなった。

○相浦地区の概要

- 相浦地区は佐世保市の北西部に位置し、相浦支所管内を対象エリアとして、令和6年6月時点での人口は26,980人であり、広範囲にかけて住宅地が形成されている。また、鉄道・高規格幹線道路・海上交通が結節しており、相浦工業団地ほか相浦港においては水産市場等の物流機能を有し、相浦川流域では農業、高島をはじめ離島部の周辺で多種多様な漁業が行われている。
- さらに、長崎県立大学や長崎短期大学等の文教機能や総合グラウンドを有していることから多くの人が訪れており、周辺地域を含む圏域の日常生活と都市活動の拠点である「地域核」、佐世保市の「副都心」として位置づけられてきた。
- 相浦地区は、「文教機能を活かして、いきいきとした交流を育むにぎわいのあるまちづくり」を目指す一方で、佐世保市立地適正化計画の「居住誘導区域」「都市機能誘導区域」が限定され、全体では浸水想定エリアや土砂災害警戒エリアも多く、抜本的な内水対策をはじめ災害に強いまちづくりが求められている。

平成 30 年に新築された相浦地区コミュニティセンターとキャンパスの再整備が進む長崎県立大学佐世保校。

相浦地区のシンボル・愛宕山、分譲を開始した相浦工業団地、そして相浦港。相浦桟橋からは離島の高島、黒島にフェリーで繋がる。

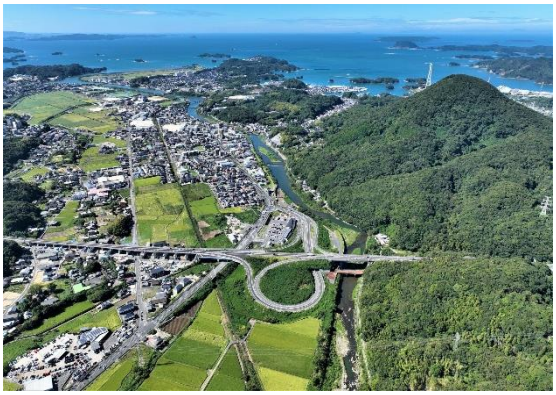
○相浦地区の活性化に向けた試み

- 過去を振り返ると、平成2年に三浦市場と相浦魚類市場を統合した新市場が相浦町に建設が開始された際、相浦港や商店街の賑わいの創出等、総合的なまちづくりの整備方針として都市活力再生拠点整備事業計画・地区再生計画が策定された。また、同事業に基づく街区整備計画が行われたものの実施には至らなかった。
- 平成3年から9年にかけて県立大学や総合グラウンドに隣接する約40haの農地が県営圃場整備事業として約20億円を投じて整備された。しかし、本来の目的であ

る水田利用が進まず、平成 17 年に当該地の農振地域約 25ha に大型商業施設の出店計画が浮上。その後、客足の分散を懸念する中心商店街等の反対や公金を投じて圃場整備した経緯もあり、市は農用地区域の除外は難しいと判断した。

- 以降農地は農家の高齢化等で活用が進まず、大半が牧草地となり、本来の圃場整備の目的を果たせていない。大型商業施設の出店計画から 20 年が経過したが、依然として広大な土地の行方について注目が集まっている。
- このように相浦地区では、新しい時代のまちづくりが求められながらも様々な理由で実現こそしなかったが、その後も地元有志による調査研究や市に対する提案活動等が継続されている。現在、相浦地区が佐世保市、県北地域の発展に貢献するまちづくりを目指し、エリアマネジメントに取り組む「相浦未来まちパートナーズ」が発足し、地域の活性化について様々な検討を進めている。

約４０ha の相浦圃場整備地は土地改良区が管理しているが、解散・新組織へ移行手続きを進めており、大半が牧草地となっている。



西九州自動車道の相浦中里 IC 付近。交通の利便性向上を好機とし、人口減少や少子高齢化、若年層の転出超過に歯止めをかけたい。

〇相浦地区のまちづくり検討における課題・前提（まとめ）

- 総合グラウンドの各施設・消防署等が老朽化し、更新の時期を迎えている。
- 地権者・生産者の高齢化に伴い、市街化調整区域・甲種農地[1]である農地約 40ha の持続可能な土地利用策への転換に向けた検討が求められている。
- 河川の氾濫による浸水のおそれがあり、抜本的な内水対策が必要である。
- 人口規模や構成、求められる都市機能に対して、商業等の賑わい機能が誘導できる

[1] 甲種農地とは、農地区分において市街化調整区域内にある特に良好な営農条件を備えている農地のこと。集団的（おおむね 10 ヘクタール以上）に存在する農地、高性能な農業機械による営農に適し、公共投資（土地改良事業等）から 8 年以内の農地とされている。

エリアが不足しており、相次ぐ公共交通機関の減便と値上げで中心市街地への移動が難しくなる等、生活利便性と交通ネットワークの維持が危ぶまれている。

- 相浦地区の地域資源を活かし、佐世保市の人口減少に歯止めをかけるまちづくり、西九州させぼ広域都市圏の展開を活かしたまちづくりが求められる。

〇相浦地区未来まちづくり構想の経緯

- 相浦地区未来まちづくり構想は、相浦未来まちパートナーズにおいて、令和５年 11 月に作業部会を立ち上げ、検討作業に取り組んできた。
- 宮島市長の市長選挙の公約「９９の政策」にも「スポーツや文教機能を活かした相浦地域の複合開発を推進」と掲げられていたことから、佐世保市企画部政策経営課も構想策定の作業にオブザーバーで参加し、作業部会を継続的に開催してきた。
- 宮島市長は、令和５年６月の議会答弁で明らかにした通り、相浦地区の方向性について、まずは総合グラウンドの再整備といったスポーツの切り口から進めていきたいとの考えである。
- まちづくり構想検討の中で、相浦未来まちパートナーズとしては様々な場面を設定し、地元意見の聴取、分析に取り組んできたところであり、そこから導き出される理想の地域像と、事業者との協働・サウンディングによる成果を踏まえ、相浦地区が持つ可能性を再確認し、まちづくり構想の策定に繋げてきた。
- 長崎県立大学や総合グラウンド、農用地の周辺を「コアゾーン」と位置づけ、農地の土地利用や老朽化した総合グラウンドの再整備を核としつつも、佐世保市・県北地域・西九州圏域のハブとして拠点性を高める相浦地区全体のまちづくりの指針となる新たなビジョン、コンセプトの構築を目指してきた。

〇相浦地区未来まちづくり構想策定の目的

- 相浦地区の将来像の提示（ビジョン）
  相浦地区の特性や役割、課題やニーズを把握し、中長期的な視点に立った相浦地区の将来像を示す。
- 総合グラウンドの再整備を契機とした複合開発の提案（戦略）
  相浦地区の将来像の実現に向け、老朽化した総合グラウンドの再整備を契機とした複合開発の推進を求め、地域活性化のまちづくりのビジョン及びコンセプトを示すことにより、これからの政策・施策形成の方向性を提案する。
- 相浦地区における官民共創のまちづくりの指針（方向性）
  地元が考える相浦地区の将来像や土地利用等の方針、まちづくりの基本理念を行政

のみならず、住民・地権者・事業者等にも共有することで、円滑な合意形成とまちづくりの推進に資する。

1.2　相浦地区未来まちづくり構想の検討にあたって

〇相浦地区のブランド・アイデンティティ

- 「持続」

古来より人々の生活拠点であった相浦地区。平野が少ない平戸藩の穀倉地帯として藩財政の立て直しに貢献し、また、相浦発電所や石炭の積み出し港としてエネルギー政策にも寄与した歴史を持つこの地区には、現在も県立大学・総合グラウンド・複合施設「あいあいプラザ」が整備され、さらに水陸機動団の駐屯地としての利活用をはじめ、我が国の安全保障に貢献している等、日常の生活から突然断絶されることから人々を守り続ける地域としての持続性を保っている。

- 「交流」

相浦地区は、かつて海上交通の要衝であったことから対外貿易の拠点となり、愛宕市のように平戸・松浦を含む地域経済の中心であった面影を現在も残す地区として、豊かな交流の経験を有する。現在も相浦地区では、周辺地域を含む圏域の地域核、また、高校・大学・短大までも含む文教エリアとして保ち続けてきた拠点性を基に、総合グラウンドや水陸機動団等、佐世保市内外から人々が集まり流れるハブ機能を活かした多様な交流の試みが続いている。

- 「創造」

相浦地区は、県立大学・短大、水陸機動団が所在していることで若者や子育て世代等が多く居住し、佐世保市域内では高齢化率が低い地区である。また、令和 7 年度の完成を目標に再整備が進んでいる長崎県立大学の隣には、老朽化して建て替えが急務となっている総合グラウンドや県内で数少なくなった広い平地があり、さらに、そこを起点とする県道 139 号佐世保鹿町線沿いには、相浦工業団地や相浦発電所の跡地がある等、新しい活かし方が期待できる大規模な余地が集中している。
相浦地区はこの活かし切れていない余地や未来世代の元気等、高いポテンシャルを引き出し、活力に満ちた創造力あふれるまちづくりに取り組んでいる。折しも、西九州自動車道の 4 車線化と延伸により、福岡都市圏をはじめ広域からのアクセスも格段と向上していくことから、都市部の若年者層が関わることで、さらなる創造に挑んでいける地域を目指す。

○佐世保市・県北地域における相浦地区の役割

- 佐世保市の最大の課題は、他都市よりも早いスピードで進んでいる人口減少への対応である。さらには、念願であった九州・長崎 IR が不認定に終わり、佐世保市・県北地域の活性化は急務であり、早急に対策を講じなければ手遅れになりかねない。
- これを最大の課題として捉えるならば、相浦地区が定住人口と交流人口を増加させ、宮島市政が掲げる「子育てしやすい政策」「子どもたちに選ばれるまち」のために活用されることこそが最善の道であると言える。
- さらに、本市特有の基地との共存を基本としながら新たな雇用が生まれ、県北地域のハブとして周遊型の観光にも寄与するようなまちづくりが求められている。平地が極めて少ない佐世保市において、相浦地区の圃場整備地は活性化の切り札として残された先人からの「タイムカプセル」なのである。

○相浦地区全体の主要課題

- 地域核にふさわしい都市機能の維持・強化
  人口減少・高齢化の進行は他地域と比較して緩やかであり、一定の若年人口が常に維持されている一方で魅力的な店舗が不足し、バス便数は減少している。居住者の利便性を高め、他地域から多くの人が訪れる拠点性の維持と強化が求められる。
- 既存の交通基盤や物流機能を活かした交流、活力の創出
  西九州自動車道相浦中里ＩＣや県道佐世保鹿町線、松浦鉄道などの陸上交通機能、黒島・高島等と繋がる相浦港を起点とした海上交通機能を活かし、新たな企業誘致や地域の交流・活力の創出が求められる。
- 地域資源や既存ストックを活かしたシティブランディング
  地域のシンボルである愛宕山や相浦川等の豊かな自然、あいあいプラザや総合グラウンド、長崎県立大学、愛宕市等を活かした憩いの場の創出や、新たな価値創造、地域の持続性を高める取組が求められる。
- 生活基盤の充実と災害リスクの抑制
  宅地化が進行する一方、４ｍ未満の狭あいな道路も多く、生活環境面では公共交通の利便性や歩道の歩きやすさに対する満足度が低い。また、相浦川・日野川沿いは浸水リスクが高く、抜本的なリスク対応を進め、浸水対策と親水空間の両立を図る。

2　未来まちづくりのビジョン・ミッション・コンセプト・ストラテジー

2.1　ビジョン（将来像）

○「未来世代に選ばれる文教地区」

- 相浦地区は、幼稚園や小・中学校だけではなく、高校や短大・大学まで有する佐世保市・県北地域・西九州させぼ広域都市圏で唯一の文教エリアとして、子育て世代*や進学時期の若者等を中心とした「未来世代に選ばれる文教地区」を目指す。

  *18 歳未満の子どもがいる世代。

○「地域振興を先導する前進基地」

- 相浦地区は、広域骨格軸*・主要都市軸**・地域連携軸***の結節点を有する日常生活・都市活動の拠点として、明治期以来の北松浦郡の情緒を共有する平戸市・松浦市・佐々町との連携を活かしながら、西九州させぼ広域都市圏・県北地域における「地域振興を先導する前進基地」となる。

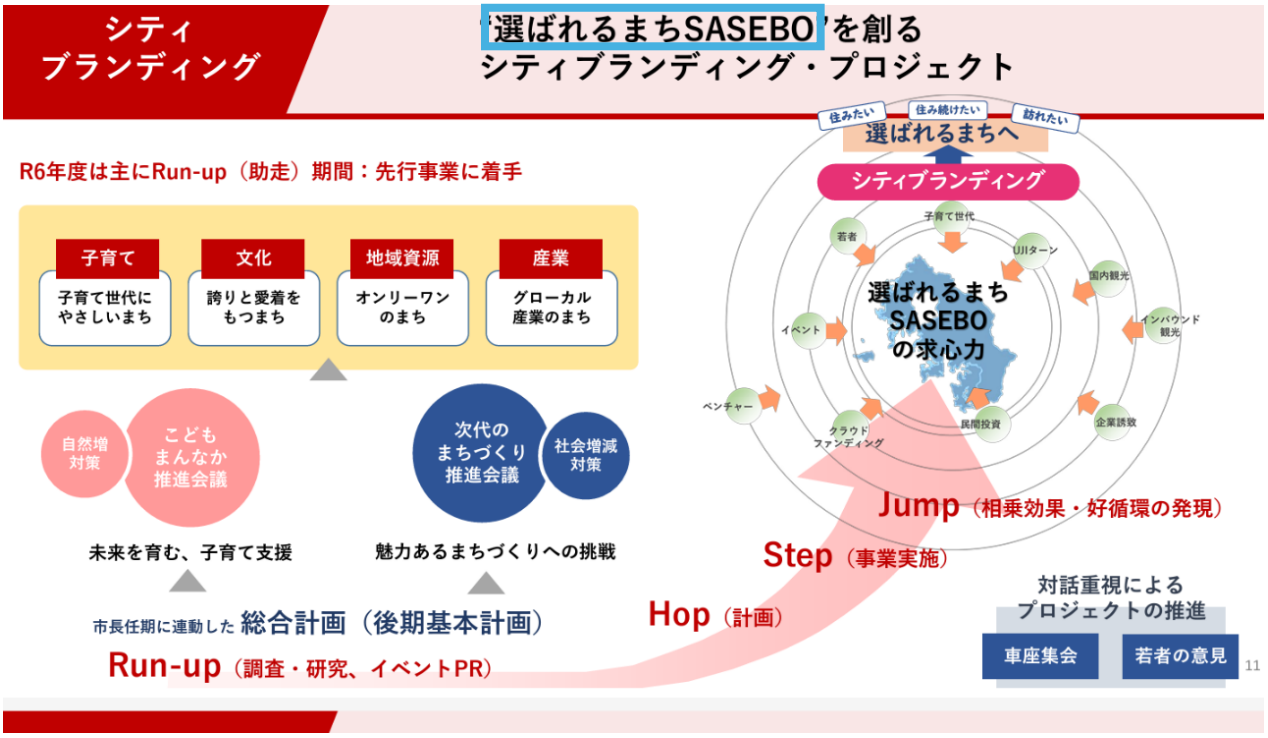
  *都市の骨格を形成し、海外や広域都市圏との広域的な移動を担う軸。西九州自動車道 相浦中里 IC
  **都市核と各地域を結び周辺市町との円滑な移動を担う軸。長崎県道 11 号佐世保日野松浦線 させぼっくす 99、松浦鉄道 真申駅・棚方駅・相浦駅・大学駅・上相浦駅
  ***各地域間の連携を高め、円滑な移動を担う軸。長崎県道 139 号佐世保鹿町線交点、黒島－高島－相浦航路 相浦港・高島港、平戸市津吉－相浦航路 相浦港

○「佐世保を輝かせる未来まち」

- 相浦地区は、佐世保市の都市構造をなす地域核の 1 つ*として、選ばれるまち SASEBO**を輝かせる未来まちのビジョンを共有する。

  *佐世保市『佐世保市都市計画マスタープラン』、令和 3 年度 3 月

  **佐世保市定例記者会見、令和 6 年 2 月 19 日



2.2　ミッション（使命）

○「共育のまちを実現する」（⇔シティブランディング・プロジェクト「 子育て 」）

- 相浦地区では、つながり合った地域社会（域）と、幼・小・中・高・大の連携した教育機関（学）の構成員がともに育む共育のまちを実現する。

○「共感のまちを形成する」（⇔シティブランディング・プロジェクト「 文化 」）

- 相浦地区では、中学生・高校生・大学生・社会人の若者*同士はもちろんのこと、壮・中・高年を含む多世代との間に若者の考え・主張・感情・感じ方に触れながら共有できる共感のまちを形成する。

  *概ね 13～30 歳の者

○「共生のまちを構築する」（⇔シティブランディング・プロジェクト「 地域資源 」）

- 相浦地区では、高島を関門とする*九十九島海域と相浦富士とも呼ばれる愛宕山に恵まれた豊かな自然環境との密接な結びつきを保ちつつ、多様なライフスタイルを追求する共生のまちを構築する。

  *高島番岳は平戸藩が番所を置いたことに由来する。

○「共創のまちを創成する」（⇔シティブランディング・プロジェクト「 産業 」）

- 相浦地区では、相浦川の下流域に広がる農住混在市街地の文化的景観*が、世界に注目される都市の「農」**として有するポテンシャルを活かし、慣例にとらわれない新しいライフスタイル・ライフワークのあり方を追求する次世代の起業家たちを呼び込める共創のまちを創成する。

  *地域における風土や人々の生活・生業により形成された、日常に根ざした身近な景観（文化財保護法第二条第 1 項第五号より抜粋・一部改変）

  **東京都『「緑農住」まちづくりガイドライン』令和 4 年 3 月

2.3　コンセプト（方向性）

○ずっと幸せな日常生活を楽しめる未来まち、あいのうら

（Ainoura, Well-being in Daily Life for Next Generation）

- 相浦地区は、代々培った「浦」*の地域性と文教エリアとしての土地柄を生かし、人材を送り出すまちでありながらも人財が戻れるまちであり続けること、すなわち「人の好循環」**を生み出すまちであることを堅持する。

  *波が静かな入江

  **単なる人の出入りではなく、社会化（社会の価値・規範を内面化して社会に適応する）と再社会化（社会の変動に合わせて価値・規範を見直しながら再適応する）を繰り返す一連の過程

- 相浦地区は、人の好循環を生み出すまちとして、とりわけ子育て世代や進学時期の若者など未来世代に選ばれる未来まち（for Next Generation）である。
- 相浦地区は、地区内の住まい手はもちろん、県北地域・西九州させぼ広域都市圏に含まれる生活圏内の使い手*もライフサイクル**に応じた日常生活を楽しめる（in Daily Life）まちである。

*いわゆる交流人口・関係人口

**ライフステージ（誕生、就・進学、就職、結婚・出産、転・退職など人生の節目となるライフイベントによって変化・区分される生活環境の段階）ごとの発達課題を達成していく過程

- 相浦地区は、一面的・瞬間的な幸せ（happiness）ではなく、多面的・持続的な幸せ（Well-being）を追求するまちである。

2.4　ストラテジー（基本方針）

○子育てから学び直しまで：「学びの自由特区」（循環型教育*に基づく実践型人財育成拠点の構築）

- 「人＝未来まちの財・宝（たから）」という観点から、人の育つ力と育てる力の両方を実際のまちの情況のもとで育む人財を域学、なおかつ官民の協働で育成する。
- 長崎県立大学と長崎短期大学を中心にした幼・小・中・高・大の連携協力を通して、学ぶべきときに学べる（家庭教育・学校教育）だけではなく、学びたいときに学べる（社会教育・リカレント教育）オールラウンドな生涯学習を支える。

  *あらゆる時期・機会もしくはあらゆる人々の間で、学び手と教え手の双方が育み合い、その育みが互いに循環すること

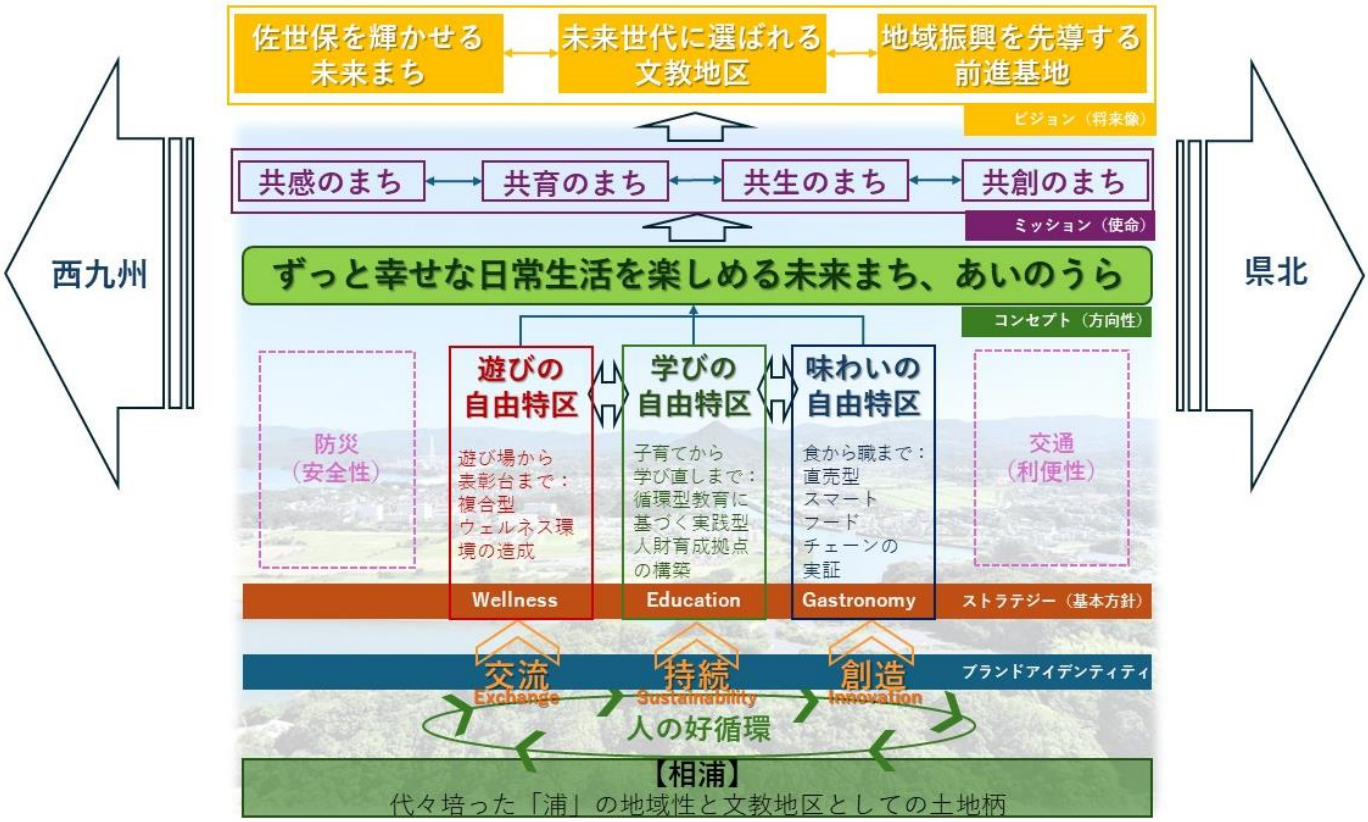
○遊び場から表彰台まで：「遊びの自由特区」（複合型ウェルネス環境の造成）

- 老朽化した総合グラウンドを再整備し、子どもから大人までのあらゆる年齢層の住まい手・使い手がそれぞれの体力・技術・興味・目的に応じて、いつでも身近にスポーツを親しむことができる全天候・複合型の運動公園を造成することで、日常の中でインスピレーションを与える。
- 佐世保市だけではなく、県北地域・西九州させぼ広域都市圏、時には海外をも視野に入れ、学校体育・運動部活動を介した学生間・教員間・保護者間の日常的・定期的な交流を「日帰り」と「合宿」の両方から支える。
- 愛宕山・相浦川・高島等、美しき里山・里川・里海の畔で、相浦の四季を楽しめるアウトドアアクティビティの場を設ける。

○食から職まで：「味わいの自由特区」（直売型スマートフードチェーンの実証）

- 圃場整備地が象徴する農業のレガシーを活かし、生産者自ら ICT 等、先端技術を活かして食料の生産・加工・流通・販売の一連の活動を行える仕組みを創る。
- 佐世保市地方卸売市場水産市場を中心にして、海の幸も生かして佐世保市のシティブランディングに貢献できる「ポップアップストア」*の場とする。
- 食を味わう、活かすという一連の活動がつながり合い、新しい食や職（仕事）を生み出す「創食」「創職」の実証に挑む。

  *ブランドの認知拡大・プロモーション・テストマーケティングなどに用いられる期間限定の店舗

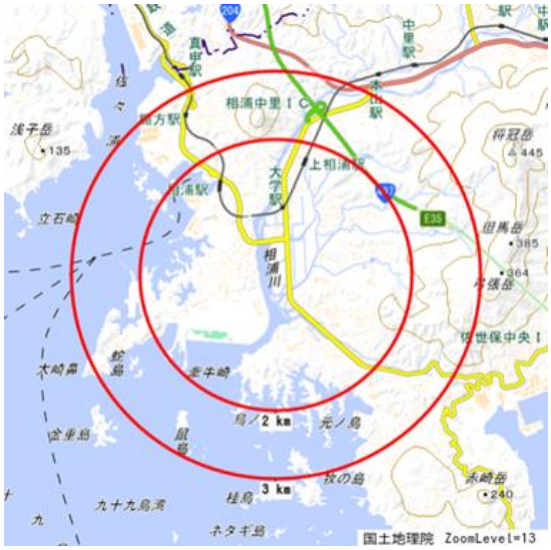


3　コアゾーンの概況分析・テーマ・構成

3.1　コアゾーンの設定と概況分析

- 長崎県立大学や総合グラウンド、相浦地区コミュニティセンターや圃場整備地付近をコアゾーンとして設定した上で概況分析を行い、それぞれの階層ごとに条件等を整理し、ゾーニング及び土地利用方針について検討を図った。

【コアゾーン】



概況分析の詳細は後段に記述するが、調査項目は以下の通りである。

- ・文教施設の立地状況
- ・人口、人員別世帯構成比
- ・長崎県立大学及び学生の状況
- ・陸上自衛隊相浦駐屯地の存在
- ・水陸機動団アンケート調査
- ・西九州自動車道の整備状況
- ・農地高度利用可能性調査（市・R4,2）
- ・スポーツ施設に係る基本調査（市・R6,3）

3.2　土地利用全体のテーマ（方向性）

- ビジョン・ミッション・コンセプト・概況分析を基に、コアゾーンの土地利用方針について、以下の４点を大きな柱として提案を行う。
- ①「スポーツ・賑わい」

  総合グラウンドの各スポーツ施設が老朽化し、施設更新が検討されていることから官民連携の事業手法や機能の複合化を含め、地域住民の健康増進はもちろん県内外から大会・合宿等で賑わう施設整備に取り組むべきである。
- ②「観光・交流」

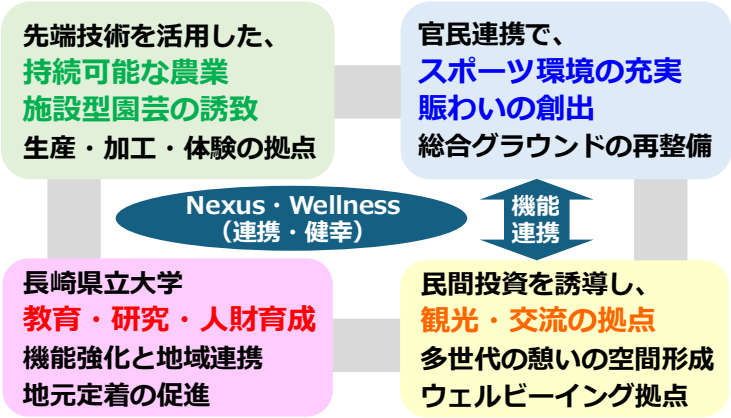
  スポーツ・賑わいの機能と連動し、今住んでいる人の流出を防ぎながら、外からの移住を増やす多世代交流施設の整備を民間投資で行う。水辺も利用して思いっきり遊ぶ・話す・くつろぐ等、憩いのウェルビーイング拠点、子どもから若者・子育て世代・高齢者までが安心して住み続けられる空間を形成すべきである。
- ③「教育・研究」

  長崎県立大学の建替事業をはじめ機能強化・地域連携を見据え、イノベーションやスタートアップ拠点の形成を図り、企業とも協働して地域の未来を担う人財育成や若者の市内企業への就職、地元定着を目指すべきである。

- ④「農業振興」

  この地に平安時代および江戸時代に開拓された農地があり、食糧の生産基地として人々の生活の維持に貢献し、自衛隊・県立大学・総合グラウンド・あいあいプラザが整備される等、地域の持続性を支えてきた面がある。よって、農業以外の利活用と生産性の高い次世代型施設園芸の誘致等、新しい農業との共存を図るべきである。

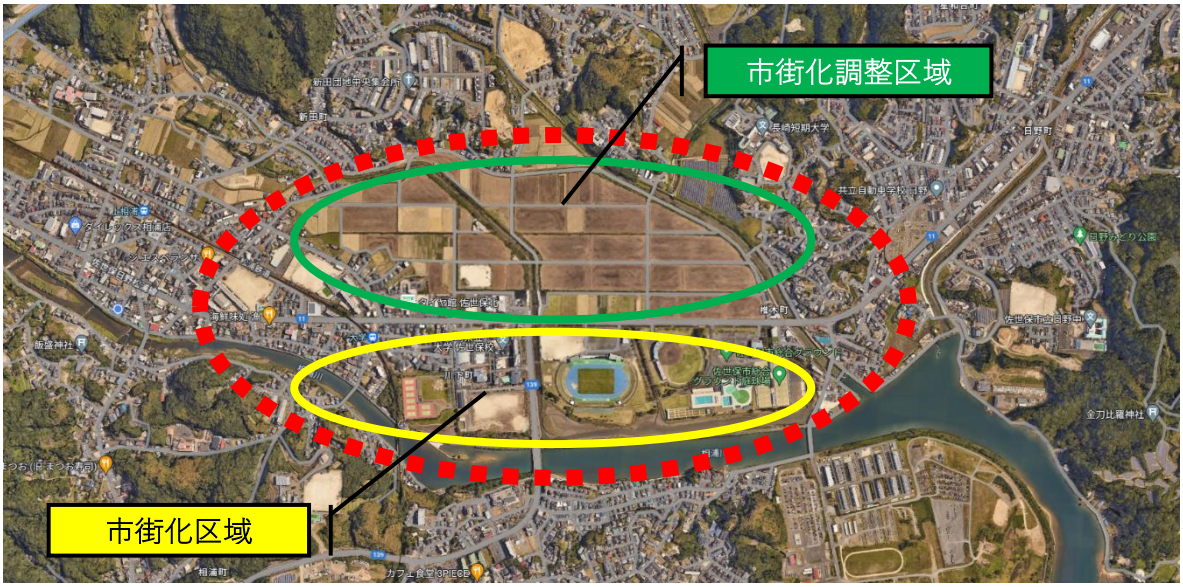
【コアゾーン・土地利用全体の方向性】



○地勢について

- 長崎県立大学・総合グラウンド・農用地・あいあいプラザ等を中心とし、それらを囲むように住宅地が形成されている。また、相浦川を挟んだ大潟方面にも住宅地や陸上自衛隊相浦駐屯地・隊舎等が立地し、近年は日野エリアにおいても住宅開発が相次いでいる。母ヶ浦でも大規模な宅地造成が続いている。
- 平成 30 年に長崎県立大学前の農地に相浦地区コミュニティセンター・相浦支所の複合施設が整備され、多くの市民に利用されている。また、令和元年より長崎県立大学の建替工事がスタート。令和 7 年度の完成が目指されている。
- 長きに亘り、農地をまちづくりの視点で開発すべきとの声は大きく、これまで様々な形で利活用の検討が図られてきた。従来の水稲を中心とする農業では土地の特徴や収益の面から存続は難しく、一方で農地法上の甲種農地であり、市街化調整区域であることから開発のハードルは高い。
- 相浦川・日野川沿いは浸水リスクが高く、全体的に低地であることから、内水対策等の抜本的なリスク対応を進める必要があり、嵩上げや強制排水が必須である。
- 西九州自動車道の相浦中里 IC を有し、佐々IC～武雄南 IC 間の 4 車線化、延伸工事が進むことにより、福岡都市圏に繋がる西回りルートの活発化が予想される。

【赤線がコアゾーン、都市計画区域の線引き】



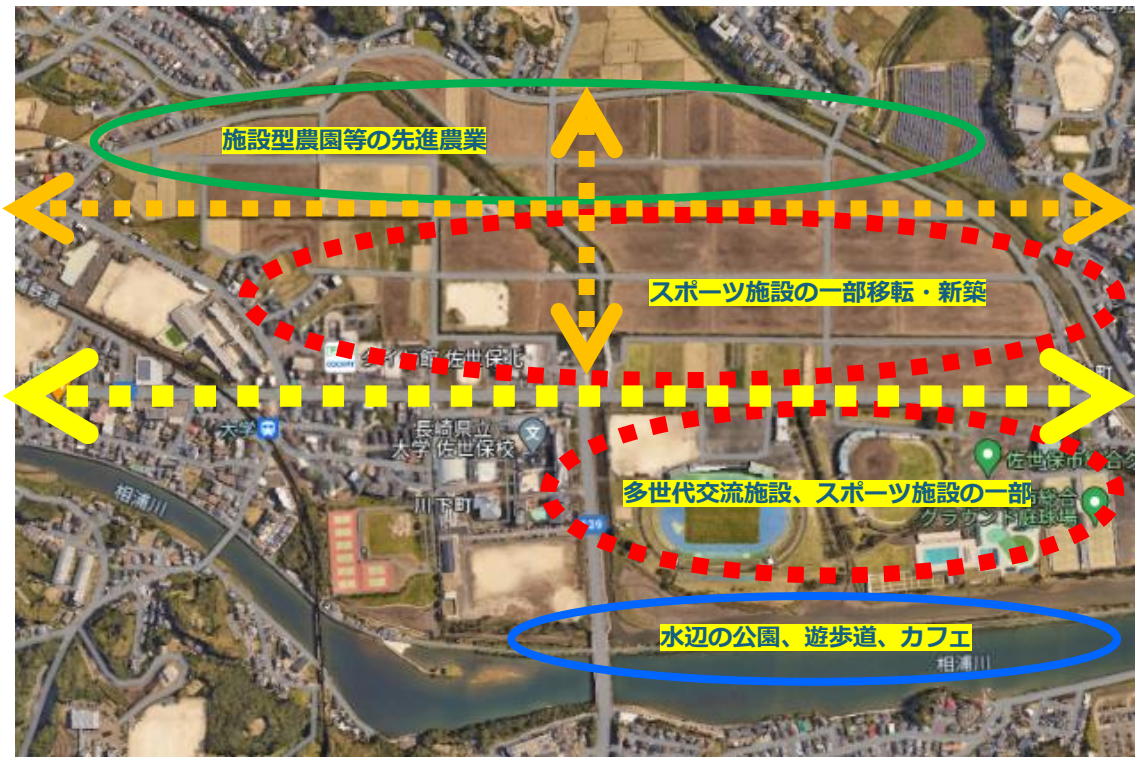
○法的位置づけ

- 農地は農地法上の甲種農地であり、原則として開発行為は許可されないことに加え、当該地は市街化調整区域となっている。面積約 40ha、地権者も約 120 名と多い。
- 但し、平成 30 年、複合施設あいあいプラザ・相浦公園等が圃場整備地内に建設された。これは公共事業による土地収用の手続きにより県との調整を経て整備されたためで、国や地方自治体が土地を取得して総合グラウンドを建設する場合も農地法・農振法に関して許可不要となる。但し、国・県との協議は必要と思われる。
- また、総合グラウンドの跡地を再開発し、商業施設や企業を誘致する場合、現在の総合グラウンド(都市公園)は「第 1 種住居地域」であるため、一定以上の開発には土地の用途変更が必要となることから、いずれにしても県との協議が必要である。

○土地利用との調和、方向性

- 農地は 40ha と広大であり、一団での利活用は困難と考える。よって、農地を道路(茶色)によって区分し、県道(黄色)の沿線に、老朽化した総合グラウンドの施設の一部を官民連携手法によって移転・新築しつつ、山手側の農地(緑色)に施設型農園等の先進農業の企業誘致を図る。
- 県道(黄色)の沿線に、スポーツ機能、レクリエーション、エンターテイメント等の賑わいの拠点を、同じく県道沿いの総合グラウンドの機能を移転した跡地に民間投資で多世代交流の憩いの場(ショッピング等)を創出し、相浦川・調整池沿いの空間(青色)は、水辺の公園や遊歩道、カフェや温浴施設等を配置する。

【土地利用との調和、方向性】

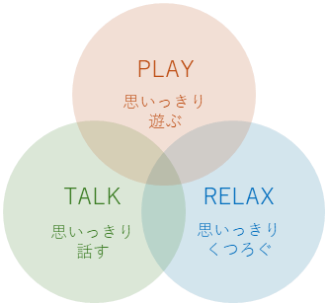


【導き出された構成（ゾーニング）】

3.3　導き出された構成（ゾーニング）

- A 街区（教育・研究ゾーン）の機能案　…長崎県立大学には、経営学部と地域創造学部の 2 学部､約 2000 名の学生が学んでおり､キャンパスの再整備が進んでいる。地域交流棟・図書館・食堂・鵬祭等をはじめ地域連携を強化し、企業との共同研究を図るイノベーション拠点の整備等、新たな施策も期待される。また、アルバイトの確保といった雇用面での連携等、多様な可能性が見込める。

- B 街区（多世代交流ゾーン）の機能案　…総合グラウンド跡地に幼児から大学生、子ども・若者をメインターゲットに多世代にとって居心地の良い交流拠点を民間投資で整備する。佐世保市や県北地域に不足している大人をはじめ、中高生以上が思いっきり遊べる・友達と何時間でも憩える場所を目指す等、ウェルビーイング拠点として、スポーツ機能との連動も図る。「公園の中にある多世代交流施設」。



- ≪具体的な機能施設≫
  屋内アミューズメント施設､川辺の空間を活かしたカフェ･地元食材のレストラン、温浴施設、食品・衣料品売場、住宅余暇売場 ＋ フードコート、子育て支援施設、キッズスペースを隣接したママスクエア、チャレンジショップ、イベントができる屋外広場・芝生広場、遊歩道、水辺の公園、テラス、駐車場等。
- 当該地が海だった歴史や「相浦」の「浦」、波が静かな水際の浦で出会う、未来に船出するイメージで水辺を含めた景観形成を図る。また、「水・海・波・帆船」をキーワードとし、広場・植栽を多く配置、建物は流線型のデザインとする。

- また、地元食材のレストランは地域の繋がりだけでなく、全国への食材発信の場として大きなエネルギーを持つ「うねり」、心や身体の落ち着きを求める温浴施設はリラックスの効果がある「さざ波」、水辺のテラスやゆっくりとした時間を過ごすカフェ・レストラン、物販店舗は静まった海面の「凪」、活動や遊び等を集約するアミューズメント棟は船が通った後にできる少し荒れた波「航跡・引き波」、中央に据える一番大きな本棟は九十九島の海に浮かび、日本・世界に出港する「帆船」をそれぞれのモチーフとする。

- C 街区・D 街区（スポーツ・賑わいゾーン）の機能案　…昭和 43 年に建設され、これまで市民のスポーツ・レクリエーション活動の場として親しまれてきた佐世保市総合運動公園(総合グラウンド)の老朽化が進むとともに、耐震性能も十分でないことから、利用者の安全性・利便性を確保するため再整備が必要な状況にある。
- また、再整備の際には、多様化・高度化しているスポーツ環境のニーズに対応するとともに、地方創生へのアプローチから大会・合宿等の誘致できる他都市にはない全天候型施設の整備、思いっきりスポーツをしながら子どもを伸び伸びと育てられる環境、健康寿命の増進や地域コミュニティの活性化、健康食品の開発、防災機能、米軍・自衛隊との交流等につながる施設整備の検討を行うべきである。

- さらに、相浦地区全体のまちづくりの視点から、スポーツ施設の一部を隣接の農地に移転・新築し、跡地に民間開発エリアを設ける等、地域の活性化に資するためのスポーツ・観光・文化等の体験を促す情報発信基地として、地域ブランドの向上と次世代の育成を図ることが求められる。
- ≪具体的な機能施設①≫

  既存の陸上競技場、テニス場、プール、野球場、体育館、運動場、アーチェリー場等に加えて、フィットネスセンターやクライミング場、補助競技場や屋根付走路、屋内練習場、宿泊施設等の新たなコンテンツも官民連携で検討すべきである。

- ≪具体的な機能施設②≫

  現在、総合グラウンドの敷地内にある西消防署もスポーツ施設と同様に老朽化し、庁舎が手狭で、職員の訓練施設・市民等の研修施設がない、女性が勤務できる施設ではない、庁舎の雨漏りや水道管の漏れ等があり、施設維持に多額の経費を要していることから、再整備が急務となっている。

  西消防署の再整備方針としては、庁舎建設場所を適正配置上現状の近隣とすること、庁舎は約 2,000 ㎡、敷地は約 3,500 ㎡が予定されていること、敷地は佐世保市単独で調達し、建設費用は広域市町も負担することが想定され、また、地震発生時等、出入口の橋梁の強度不足も懸念されていることからも、総合グラウンドの再整備を契機として併せて建設を行うことが必要と考えられる。

- E街区（農業振興ゾーン）の機能案　…水稲の代替作物及び地域に適した大規模施設園芸やチャレンジファーム・観光農園等を民間投資で整備し、地域農産物の創出と販路開拓、多様性のある地域雇用を生み出し、税収アップ等を図る。
- 一部農地転用による農業以外の機能の導入を含めた複合的なまちづくりの展開し、農業と食、スポーツ、観光、教育、人財育成、多世代交流等の多様な分野との連携によるビジネスやサービスの創出につなげていく。

- F街区（食育・子育て等、多機能ゾーン）の機能案　…農業振興ゾーンと機能連動できる子育て施設、自然体験や体験農園等、体験型の教育や交流の場となる機能を求めていく。また、このエリアでは、すでに相浦農業倉庫のリノベーション事業に着手しており、様々な世代が「食」や「文化」で憩う空間が整いつつある。

○全体的なアプローチ（A 街区～F 街区までの共通テーマ）

- スマートシティ・安全安心なまちづくりの要素

現在のまちづくりにスマートシティの思想は欠かせない。近年では福岡市東区箱崎の九大跡地の再開発、東京都中央区築地の再開発をはじめ、スマートシティを標準装備した提案募集により、民間投資を誘導するプロジェクトが増えている。

相浦地区の場合、必要な都市機能である生活空間、医療、商業・交流・宿泊施設、交通ターミナル、総合運動公園（レクリエーション施設を含む）等が有機的に結びつき、このコアゾーンで全てが補えるような完結型の地域核の形成を試験的に図るべきである。世界的には、シンガポールにおいて、上記のようなコンパクトシティが分散して都市の拠点を形成している。

さらに、相浦地区は県北・西九州圏域における唯一の文教エリアだが、コアゾーンは農地を中心に街路灯が少なく、夜間は真っ暗であり、対策が求められている。

- 交通分担機能・バスタプロジェクトの要素

佐世保市では、市中心部から南部・東部方面にかけて慢性的な渋滞が発生している。これは南部・東部への重心の移動や商業機能が偏っていることも要因であると推測できる。よって相浦地区の住機能と交流・レジャー機能を強化することは、佐世保市全体の交通渋滞の緩和にもつながる。

また、松浦鉄道や路線バス、タクシー等の多様な交通モードがつながる公共交通のターミナルを官民連携で整備する「バスタプロジェクト」についても、相浦地区において検討すべきである。中心市街地との行き来はもちろん、スマートシティとの連携、他の交通拠点との連携、次世代型モビリティとの連携といった取組や、相浦地区内においても相浦中里 IC からコアゾーンまでの道路整備等の渋滞・物流対策を進め、防災・観光拠点としての機能強化等につなげていく。

- 災害に強く環境にやさしい都市基盤の要素

相浦川・日野川沿いは浸水リスクが高く、農地の嵩上げを行う場合、強制排水施設や雨水貯留施設の整備等、抜本的な内水対策を進める必要があり、いずれにしても全体的な土地利用等、まちづくりの検討の中でのシュミレーションが肝要である。

また、エネルギーの分野ではカーボンニュートラルに取り組み、相浦地区の住民にとって最重要ポイントである愛宕山の見える景観との調和についても努めていく。

- 中心市街地、他の地域核との機能連動の要素

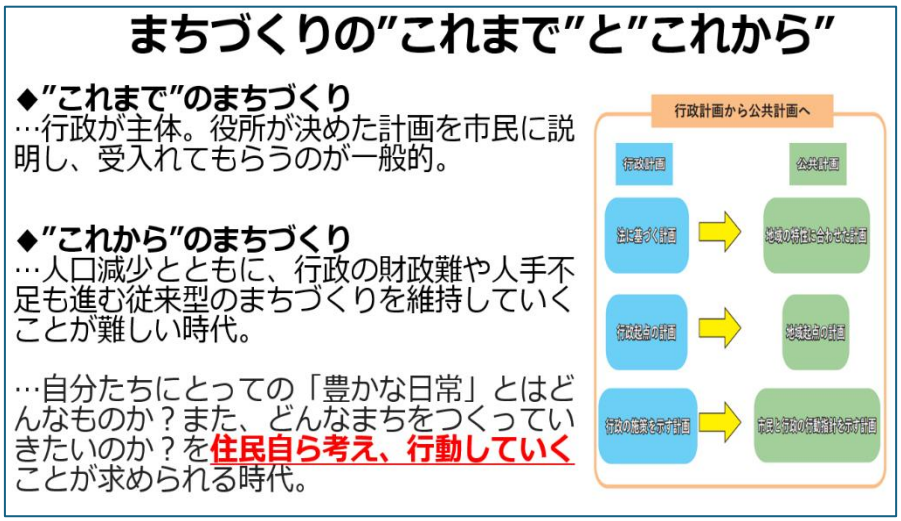
相浦地区が持っている広域のポテンシャルや、文教エリアとしての教育・研究機能を強化し、スタートアップを通じて商店街の空き店舗への開業を促す等、相浦地区と中心市街地の活性化が両立するよう、都市機能を分担するまちづくりを進める。

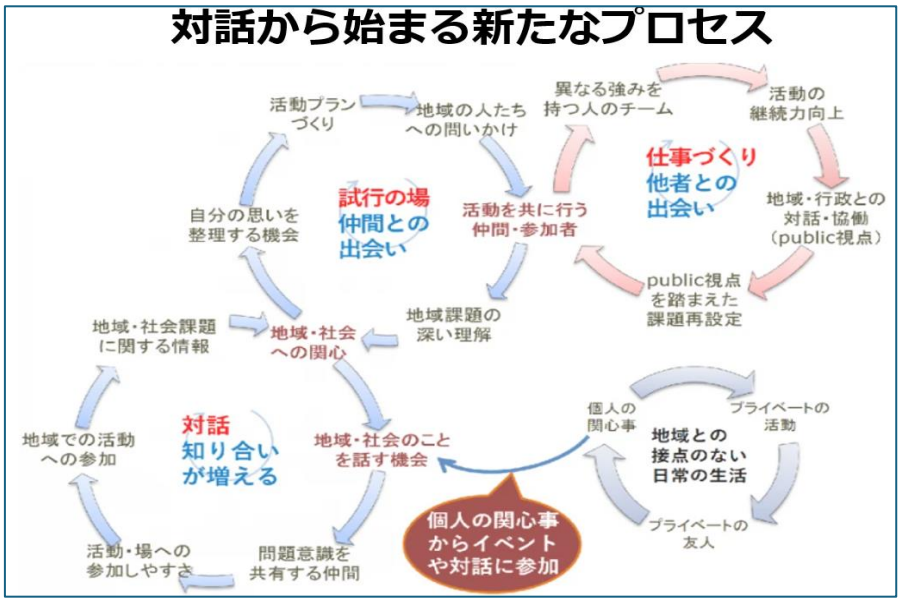
○相浦地区の広域機能の相関図

4　相浦未来まちワークショップ

4.1　開催の背景・目的

- 佐世保市を代表する文教エリアである相浦地区の魅力や課題、未来に対する思いや願いを他の参加者との交流・対話を通じて挙げてもらう場を設定し、相浦で日々暮らしている住民、相浦で学んでいる若い学生等、多様な視点によって「相浦の未来」のビジョンについて意見やアイデアを発掘する。
- このワークショップで得られた意見やアイデアは、相浦地区未来まちづくり構想の策定作業において、様々な施策提案につなげ、住民自らの知恵と工夫で発展させていくことを目的としている。





出所）文京区（2016）「新たな公共プロジェクト成果検証会議報告書」より

4.2　当日の開催概要

【相浦未来まちワークショップの開催概要及び意見募集の実施概要】

【当日の開催概要は下表のとおり】

項目	概要	
開催日	2024 年 7 月 12 日（金）	2024 年 7 月 26 日（金）
開催時間	18:30～21:00	18:30～21:00
開催場所	長崎県立大学佐世保校 地域交流棟 2 F 405 教室	長崎県立大学佐世保校 地域交流棟 2 F 405 教室
対象者の選定基準	相浦地区在住の 20 歳以上の方（長崎県立大学の学生含む）	
参加者数	32 名	58 名
内容	■参加者自身の経験や思いを踏まえながら、「将来の相浦地区がどのようになってほしいか」、全 2 回のワークショップを通じ、相浦地区で取り組んでみたいことについて話し合う。 ■ワークショップ手法は「ワールドカフェ」形式を採用した。 1 ラウンド 15～20 分の合計 3 ラウンドで、グループごとに分かれた参加者が互いに交流し、他の参加者の意見や思いを学び合える形に設計した。	

4.3　実施方法

- 相浦未来まちワークショップは、1 グループ 5 ～6 人ごとの小グループに分かれたワークショップを開催した。以下はワークショップ全体の流れを示している。

- ワールドカフェとは…米国で組織開発やコミュニティ構築の支援、対話の促進を研究・実践してきたアニータ・ブラウン氏、デイビッド・アイザックス氏が考案した。自宅での話し合いの場で、リラックスしてオープンな話し合いを行えるように様々な工夫を凝らした空間や雰囲気を用いた結果、創造性に富んだ対話が生まれた経験に基づいている。世界各地の企業、学校、政府、NPO、コミュニティで多様な意見を出し、全員参加で話し合う方法として普及している。

ワールドカフェとは？

カフェのようなリラックスできる環境でメンバーの組合わせを変えながら共通の話題・テーマ（問い）に集中して４～５人という少人数での会話を重ねていくことにより集合的な気づきが得られる会話の手法。

文化や状況の共有、新しい知識の生成を行う話し合いのプロセス。

ワールドカフェの流れ

第１ラウンド
- ■自己紹介
- ■何人かずつ（４～6名程度）がテーブルに座り、テーマに沿って話し合う

第２ラウンド
- ■各テーブルに１名のホストを残し、他のメンバーは旅に出る（他のテーブルに移動する）
- ■ホストが第1ラウンドでの話し合いの内容について簡単に説明。新しいメンバーは、各テーブルでの対話内容を少しずつ追加しつつ、新たな話し合いを始める

第３ラウンド
- ■旅人は元のテーブルに戻ってさらに考えを深めていく
- ■最後に模造紙のスペースに書き込んで、対話のまとめのテーマを記載

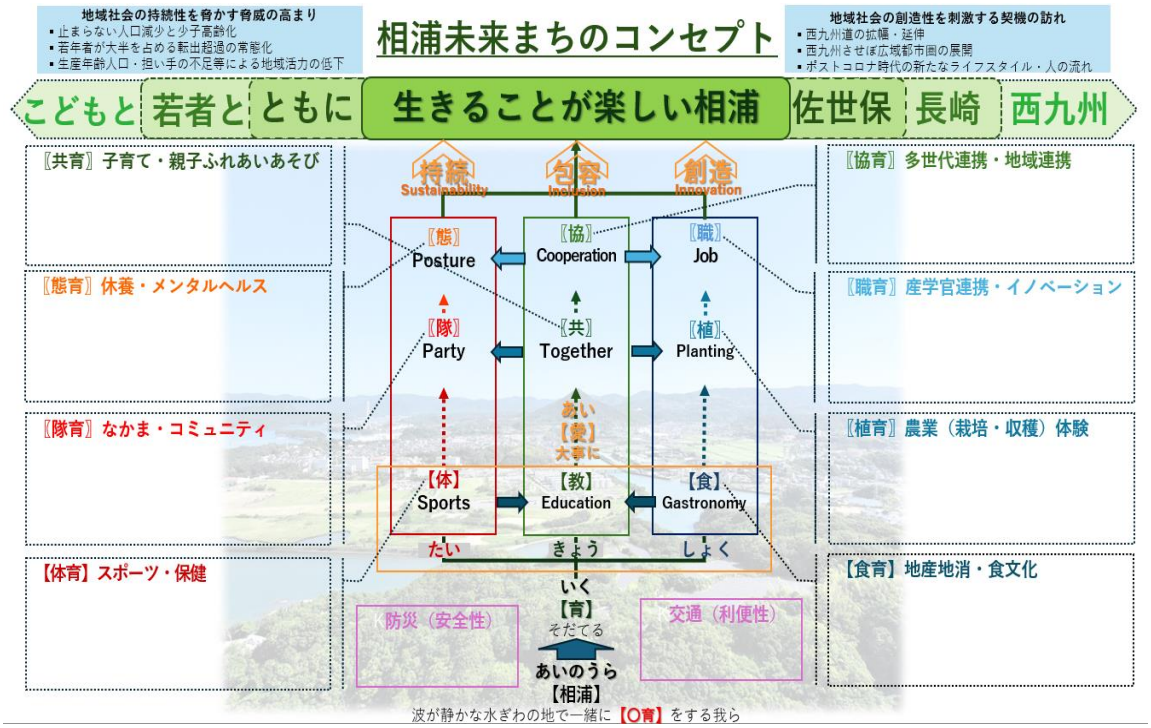
〇話し合いのルール

- 「話し合い」は賛否の結論を出すだけではない。共通の結論や合意を形成するために協力と努力を必要とする集団的意思決定の一つである。ただし、こうした場では、参加者の熱意とあふれる真摯な態度や姿勢があってこそ有効になる。
- 声の大きな参加者が一方的に発言する場だけでは、本当の意味でもまちづくりビジョンづくりや合意形成は成り立たない。そのため、参加者全員が前向きに協力して意見やアイデアを出していこうという積極的な意欲がなければ、話し合いを重ねても大きな効果を期待することはできない。重要なことは、相手を尊重して、互いに話し合って積極的で熱意あふれる話し合いの場づくりを促すことである。
- 今回、全 2 回のワークショップでは、参加者全員が守るべき「話し合いのルール（グランドルール）」を設定し、話し合いや振り返りの場面で意識づけを行った。以下は、ワークショップ当日に用いた「話し合いのルール」の例である。

4.4　相浦未来まちのコンセプト

- 「相浦未来まちワークショップ」では、参加者から出た意見やアイデアを「生きることが楽しい相浦」を中核的な理念とし、多くの参加者から意見やアイデアを抽出した。相浦地区も人口減少と少子高齢化、若年層の流出、生産年齢人口・担い手不足等による地域の活力や紐帯が弱くなっていく中で、持続可能な地域社会をいかにしてつくっていくかは焦眉の課題である。
- 他方で、佐世保市においては、西九州道の拡幅・延伸、西九州佐世保広域都市圏の展開、ポストコロナ時代における新たなライフスタイルや人の流れ・交流等、地域社会の創造性を刺激する動きも将来のまちづくりの契機となりうる。

- 本ワークショップでは、子どもから高齢者までの幅広い世代、地理的には、「相浦➢佐世保➢長崎（県北地域）➢西九州」をスケールとして想定している。さらに、生活基盤を支える「防災（安全性）」と「交通（利便性）」を加え、文教地区である相浦地区から「育てる」≒「〇育」をコンセプトに、相浦地区の現在そして未来を構成する要素を、それぞれ【共育】【態育】【隊育】【体育】【協育】【職育】【植育】【食育】という８つのカテゴリーに分け、ワークショップの参加者から挙げられた意見やアイデアを整理・分類する際のベースにしている。



4.5　住民意見

〇第１回ワークショップの概要

□開催日時 2024年7月12日(金) 18:30～21:00
□開催場所 長崎県立大学佐世保校 地域交流棟2階F 405教室
□参加人数 32名
□属性など 20代～70代（うち県立大学生6名）
□ファシリテーター（長崎県立大学 准教授 石田 聖）
□プログラム
・開会挨拶（相浦未来まちパートナーズ 代表理事　浦 芳郎）
・アイスブレイク＆自己紹介(参加者全員)
・ワールドカフェ ＆ 話し合いのルールの説明（長崎県立大学 准教授　石田 聖）
・「相浦未来まち」コンセプト＆マッピングの説明（長崎県立大学 教授 車 相龍）
【ワールドカフェ】
- 第一ラウンド「相浦の魅力、良いところ、相浦らしさについて」
- 第二ラウンド「相浦の課題、改善すべき点について」
- 第三ラウンド「相浦の将来の姿、あなたが望む相浦の未来について」
・まとめ ＆ 全体報告
・閉会挨拶

○出された意見を、「相浦未来まち」コンセプトに落とし込んで分類

第１ラウンド：「相浦の魅力、良い点、相浦らしさ」について

【共育】子育て・親子ふれあい遊び
- **子どもたちが多い**
- **子育て世代が多い**
- 子どもたちが元気
- 学校によい生徒児童が多い

【態育】休養・メンタルヘルス
- 静か
- 癒しが多い

【隊育】仲間・コミュニティ
- **人が温かい、ぬくもりのある町**
- **地元愛・仲間意識が強い**
- 楽しい、面白い大人たちが多い
- 相浦独自のイベントがある
- 歴史・昔話を語れる人がいる

【体育】健康・スポーツ
- **散歩しやすい、歩きやすい**
- 元気、生き生きした人が多い
- スポーツが盛んな地域
- 川沿いのランニング
- ドッグランができる

【協育】多世代連携・地域連携
- **学生など若い世代が多い**
- 愛宕祭り
- 年長者の捉え方の変化

【協育】多世代連携・地域連携
- 学生など若い世代が多い
- 愛宕祭り
- 年長者の捉え方の変化

【職育】産学連携・イノベーション
- **長崎県立大学の存在**
- 大学図書館が利用可能であること

【植育】農業（栽培・収穫）体験
※第1回目では特段の意見なし

【食育】地産地消・食文化
- **新鮮でおいしいお魚**
- **おいしい飲食店が多い**
- 港があって食材豊富
- すぐ魚釣りできる

防災・安全性
- **地震が少ない**
- 市街地と比較して安全
- 消防車・救急車が移動しやすい

交通・生活利便性
- **アクセスの良さ（西九州道のアクセス改善等）**
- 松浦鉄道（MR）駅の存在
- 渋滞しにくい
- スーパーが多い
- 住むのにちょうどよい

※太字は複数の参加者から意見が出たもの

第２ラウンド：「相浦の課題、改善すべき点」について

【共育】子育て・親子ふれあい遊び
- 子どもが遊べる場所が少ない

【態育】休養・メンタルヘルス
- 文化を学べる場所が少ない

【隊育】仲間・コミュニティ
- **遊ぶ場所が少ない**
- **お店・飲み屋が少ない**
- 集まってたむろできる場がない
- 祭りの危機、形骸化
- 飲み屋が少ない

【体育】健康・スポーツ
※第1回目では特段の意見なし

【協育】多世代連携・地域連携
- **世代間の交流・接点が少ない**
- 挨拶や声をかけづらい
- コミュニケーションのきっかけがない
- 大学4年間いて、相浦を知る機会がない
- 大学の外に人がいない
- 「相浦」という地域の統一感がない

【職育】産学連携・イノベーション
- **仕事場・バイト先がない、少ない**
- **県立大と地域の意思疎通が少ない**
- 大学が利用しづらい、敷居が高い

【植育】農業（栽培・収穫）体験
- 直売所が近くにない

【食育】地産地消・食文化
- 2軒目の店が少ない
- 飲食店の営業時間が短い
- 学生向けの食堂が少ない
- 地産地消ができていない
- 港が利活用できていない

防災・安全性
- **水難に弱い**
- 避難所がわからない、遠い
- 不審者が多い（増えた）

交通・生活利便性
- **バス、MR便の少なさ**
- **市街までの交通費が高い**
- 街中のバイト先まで遠い

※太字は複数の参加者から意見が出たもの

第３ラウンド：「相浦の将来の姿、あなたが望む相浦の未来」について

【共育】子育て・親子ふれあい遊び
※第一回では特段の意見なし

【態育】休養・メンタルヘルス
■いろんな人と文化を学べる場所がほしい

【隊育】仲間・コミュニティ
■地元にある施設の活用
■外から来た人の居場所の確保
■飯盛神社を通じた交流、コミュニティづくり
■多様な人々とのコミュニティづくりとコミュニケーション

【体育】健康・スポーツ
■スポーツ活動の盛り上がり

【協育】多世代連携・地域連携
■**積極的に世代間交流できる場所**
➢「あいさつ通り」を創る
■学生・若者中心のイベントや祭り
■（大学以外の）若者の居場所づくり
■世代の違う人同士や歩み寄る努力が地域に必要

【職育】産学連携・イノベーション
■若者が挑戦できるまち
■学生が働ける職場を作る
（工業系、コワーキングスペースなど）
■県立大学と地域の意思疎通の強化
➢学生・社会人が一堂に会するBar
■学園祭の活用

【植育】農業（栽培・収穫）体験
※第一回では特段の意見なし

【食育】地産地消・食文化
■マルシェイベントの開催
■手軽に漁ができる環境
■「相浦といえば」の食べ物、名物をつくる

防災・安全性
■大雨などの災害対策強化

交通・生活利便性
■シャトルバスで街中と相浦を往復
■買い物難民向けのライドシェアサービスの実施
■大型商業施設の誘致
■シネコン、ラウンド１のような集まれる場所が欲しい
■お洒落なカフェが欲しい

※太字は複数の参加者から意見が出たもの

【その他】第一回ワークショップで寄せられた意見

■以下は「相浦未来まち」コンセプトの分類以外で挙げられた意見を示している。

第1ラウンド 「相浦の魅力、よい点、相浦らしさ」	第2ラウンド 「相浦の課題、改善すべき点」	第3ラウンド 「相浦の将来、臨む姿」
相浦の魅力（自然環境） ■**愛宕山がきれい、地域のシンボル** ■**海と山と川** ■**自然が多い、自然が豊か** ■**夕焼け・夕陽が美しい** ■四季折々の魅力がある ■島が近い ■カニが多い ■いろんな鳥がいる ■平地が多い	**相浦の課題、改善すべき点（自然環境）** ■自然の豊かさが「当たり前」になっている ■ここにいると海を感じない ■草、雑草が生い茂っている	**相浦の将来（自然環境）** ■愛宕山のライトアップ
相浦の魅力（歴史・文化） ■**佐世保市街よりも古い歴史がある** ■**伊能忠敬と縁ある歴史がある** ■**漁港の歴史** ■昭和感が色濃く残っている ■飯盛神社 ■和田津美神社	**相浦の課題、改善すべき点（歴史・文化）** ■**相浦の情報発信が弱い** ■商店街がさびれている	**相浦の将来（歴史・文化）** ■地元の魅力を地元から発信 ■商店街に屋根付きアーケードが欲しい ■まっすぐな道でパレード ■神社・お寺の文化の発掘
相浦の魅力（その他） ■相浦が徐々に街化している ■五十音順でほぼ一番	**相浦の課題、改善すべき点（その他** ■**相浦の情報発信が弱い** ■商店街がさびれている ■怖いおじちゃんんのようなキャラ立ちした存在がいなくなった ■そもそもいろんな文化があるのか？	

※太字は複数の参加者から意見が出たもの

○第１回ワークショップの意見の特徴や傾向

- 第１ラウンド：「相浦の魅力、良いところ、相浦らしさ」について
- 最も発言数が多かったのは「愛宕山」であり、11 件の発言があった。これは相浦の住民が愛宕山を地域のシンボル、代表的な景観や原風景、地域にとって重要なランドマークとして捉えていることがわかる。次点で、相浦の魅力として「魚が美味しい」（6 件）という意見が多く見られた。
- 「子育て」については、「子どもたちが多い」「子育て人口が多い」が見られた。「地域コミュニティ」に係るものとしては、「よい人が多い」「人が温かい」「地元愛が強い」「仲間意識が強い」といった意見が出された。
- 「健康・スポーツ」については、「歩きやすい」「散歩がしやすい」といった意見が見られた。「多世代連携・地域連携」については、長崎県立大学をはじめ大学生等の「若い世代が多い」という意見が出された。
- 「地産地消・食文化」については、「新鮮な魚が美味しい」「美味しい飲食店が多い」という意見が多くみられた。
- 前述した「愛宕山」に代表されるように「海と山と川」「自然が多い」「自然が豊か」等、相浦の「自然環境」を評価する意見が多くみられた。
- 「歴史・文化」については、相浦が「（市街地よりも）古い歴史がある」が複数出されており、関連するところでは歴史のある神社やお寺、相浦漁港の存在といった意見が確認できた。
- 「防災・安全性」については、「地震災害の少なさ」、「交通・利便性」については、西九州道が整備され「アクセスが良い」「各地へのアクセス改善」といったコメントに加え、「松浦鉄道（MR）駅」の存在、「スーパーなど買い物できる場所がある」ことが挙げられた。

○第２ラウンド：「相浦の課題、改善すべき点」について

- 最も多かった意見として、「仕事先・バイト先が少ない」という意見が 6 件あり、相浦地域における雇用や仕事の問題に対する課題意識が挙げられる。次点で、「遊ぶ場所が少ない」、「水害に弱い」、「情報発信が弱い」がいずれも 4 件であった。
- 「地域コミュニティ」については、前述した「遊ぶ場所が少ない」「お店が少ない」といった意見が見られ、地域における祭りの衰退や形骸化といった意見が出された。
- 「多世代連携・地域連携」については、「世代間の接点・交流がない」「コミュニケーションのきっけがない」という意見が出された。特に、学生参加者からは「4 年間生活するが、相浦を知る機会が少ない」といった意見も出されていた。

- 前述した通り、学生と社会人ともに「仕事先・バイト先が少ない」「(健全な）仕事先が欲しい」といった地域における雇用、仕事環境の確保を望む声が多かった。
- 「食文化・地産地消」については、「2 軒目のお店が少ない」「飲食店の営業時間が短い」「地産地消ができていない」「直売所が近くにない」といった意見が出された。
- 「防災・安全性」について、「水害に弱い」「大雨災害がひどい」という意見が多く出されていた。
- 「交通・利便性」について、バスや松浦鉄道（MR）など「公共交通の便が少ない」ことが意見として出された。特に、大学生からの意見として「市街地までの交通費が高い」「街中のバイト先まで遠い」といった意見が出された。

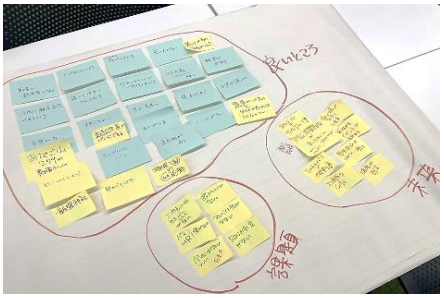
○第 3 ラウンド：「相浦の未来、あなたが望む相浦の姿」（参加者からの提案）について

- 世代を超えた交流の場づくり、地域連携・産官学連携に意見が集まり、そのための相浦地区の施設の活用、既存イベントの活用や新たな提案等に多くの意見があった。以下は、参加者から出された相浦の将来に関する要望および提案の一覧である。

【共育】多世代交流・地域連携 ＊相浦農業倉庫の活用、遊べるようにする ＊地元にある施設の活用➤外から来た人の居場所の確保 ＊飯盛神社を通した交流、神社とお寺が（学生の）コミュニティになる ＊積極的に世代間が交流できる場所 ＊（知らない人同士）も挨拶のできる町➤相浦地域に「あいさつ通り」を作る ＊若い人の居場所（大学外で）があればよい ＊学生中心のイベント、盛り上がるお祭りを実施する ＊いろんな文化を学べる場が欲しい ＊「昔の普通」を学ぶ ＊世代の違う人が歩み寄る努力が地域に必要
【協育】産官学連携・イノベーション ＊県立大学と地域の意思疎通の強化 ＊（相浦農業倉庫で）大学生が挑戦できるまちづくり ＊工業系の人が働く場所を作る（コワーキングスペースの設置） ＊ほぼ学生が働いている場所を作る ＊学生と社会人が一堂に会する Bar が欲しい ＊学園祭（鵬祭）の活用 ＊大学と地域との連携について、もっと情報発信を行う
【体育】健康・スポーツ ＊スポーツ活動のさらなる盛り上がり ＊よい芝生が必要

【食育】地産地消・食文化 ＊マルシェイベント（＋クイズイベント）の開催 ＊「相浦と言えば」という食べ物、特産品をつくる ＊手軽に漁ができる場所
【交通・利便性】 ＊シャトルバスで街中と往復移動 ＊買い物難民向けのライドシェアサービスの実施 ＊大学周辺に商業施設が欲しい ＊シネコンやラウンド１のような集まれる場所が欲しい ＊お洒落なカフェが欲しい
【防災・安全性】 ＊大雨などの水害対策の強化
【その他】 ＊愛宕山のライトアップ！ ＊相浦商店街に屋根付きアーケードが欲しい ＊相浦のまっすぐな道でパレードを行う ＊神社やお寺文化の発掘

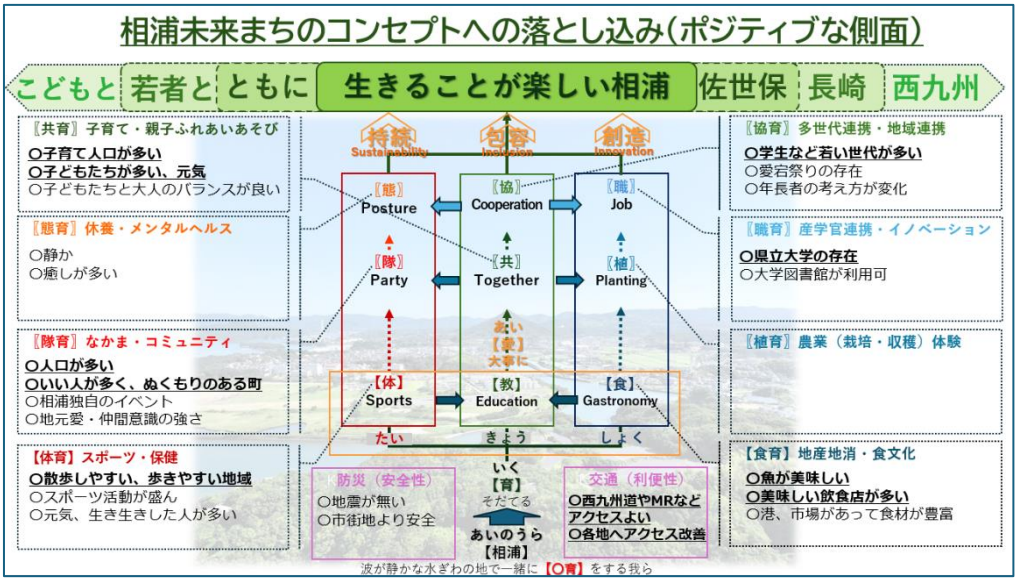
○第１回ワークショップの様子

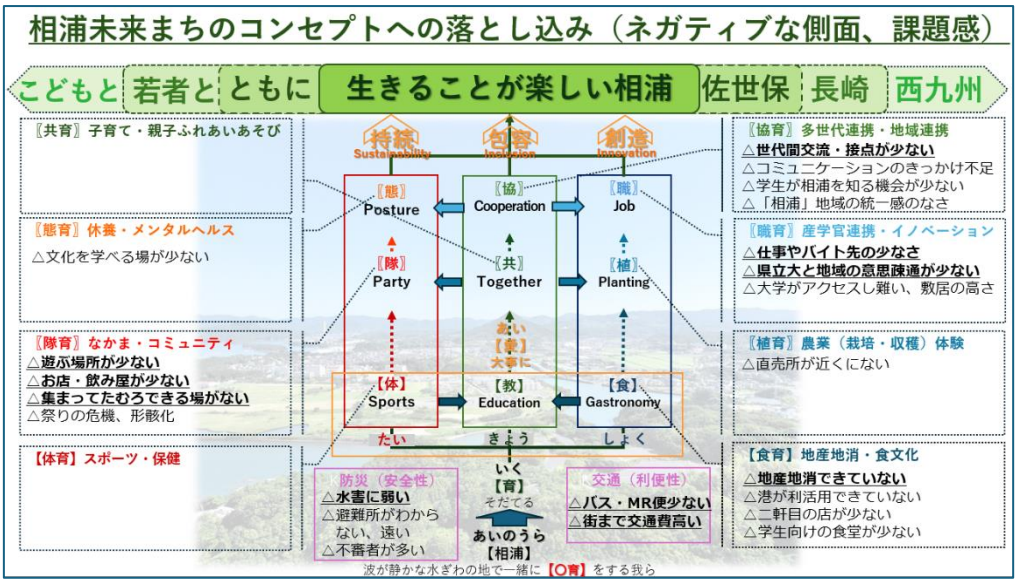


○「相浦未来まち」のコンセプトへの落とし込み

- 第１回ワークショップ終了後、参加者の話し合いの成果を整理・分類するため、「相浦未来まちコンセプト」への落とし込みを行った。以下は参加者の意見やアイデアをコンセプトに落とし込んだ図である。

● 前者は、第１ラウンドで話し合いを行った「相浦の魅力、良いところ、相浦らしさ」（ポジティブな側面）について、後者は、第２ラウンドのテーマであった「相浦の課題、改善すべき点」（ネガティブな側面）について参加者の意見を反映させた。





※太字部分は参加者から多くの複数意見が出ていたもの

○第２回ワークショップの概要

● 第２回では、第１回の成果、意見・アイデアを基に協議を深め、住民や学生から、より具体的な要望や提案を引き出すことを目的に、話し合いのテーブルを「教育」「スポーツ・健康」「農業」等のテーマに絞ってグループ分けを行った。

● 前回のワークショップよりも、意見やテーマを掘り下げ、最後に相浦地区を示した

地図上（街区 A～F）に、将来の相浦で自分たちが「取り組んでみたいこと」「実現してほしいこと」等、参加者からの提案をマッピングする作業を行った。

□開催日時 2024年7月26日(金) 18:30～21:00
□開催場所 長崎県立大学佐世保校 地域交流棟2階F 405教室
□参加人数 58名
□属性など 20代～80代（うち県立大学生11名）
□ファシリテーター（長崎県立大学 准教授 石田 聖）
□プログラム
・開会挨拶（相浦未来まちパートナーズ 代表理事　浦 芳郎）
・アイスブレイク＆自己紹介(参加者全員)
・ワールドカフェ ＆ 話し合いのルールの説明（長崎県立大学 准教授　石田 聖）
・「相浦未来まち」コンセプト＆マッピングの説明（長崎県立大学 教授 車 相龍）
【相浦未来対話会(ワールドカフェ手法のアレンジ)】
- 第一ラウンド「相浦の魅力や課題について自由に話し合い」
- 第二ラウンド「深掘りしたいテーマ①」
- 第三ラウンド「深掘りしたいテーマ②」
・まとめ ＆ 全体報告/ 全体講評（相浦地区自治協議会 会長 山口 久雄）
・閉会挨拶

○ワークショップの手法

- 基本的には、第 1 回と同様に 1 グループ 5 ～6 人ごとの小グループに分かれ、前回と同じく 1 ラウンド 20 分、合計 3 ラウンドのワールドカフェ方式を基本とした。加えて、第 1 回ワークショップの参加者から出てきた意見内容を基に、より具体的な提案を引き出すため、「相浦未来対話会」と称し、第 2 ラウンドと第 3 ラウンドの話し合いは、各テーブルでテーマ設定を行っての実施となった。

相浦未来対話会について

■「未来対話会」とは…
「まちの将来」「未来世代のことを考える」などをテーマに未来志向でテーマについて対話の場を作っていきます。
（参考事例）松浦市「地域版未来会議」、壱岐市「壱岐なみらい創りプロジェクト」

■第1回目（7月12日）の話し合いで出た議論やアイデアをもとに、テーブルごとにテーマを設定し、相浦の未来について考えます。

■一人ひとり大切にしたいこと、思いがあり、好きなことや関心のあることも違い、それぞれにいろんな考えがあります。
いろんな意見を持った人と、それぞれの意見や違いを尊重しながら、“地域の未来”について率直に話し合いを行っていきます。

■最後に、ここで出た意見やアイデアを**地図に落とし込んで**みます。

第2回 ワークショップ各テーブルのテーマ

○グループでの話し合いの結果

- 以下、各テーブルをテーマ別に分けた話し合いで出された意見・アイデアである。とくに下線部太字で強調された意見は複数の参加者から意見が挙がったもの。

■テーマ１「教育・世代間交流（小中高校や大学との連携）」

≪良いところ≫	≪課題点、改善が必要なところ≫
＊子どもたちが多い ＊まちのあたたかさ ＊子ども会での交流 ＊地域開発が進む、他所から人が流入 ＊相浦には潜在力がある ＊小学生でも上下関係がある ＊大学生活に集中できる ＊学生や様々な人が手伝っていた(行事) ＊（昔は）よその子どもも怒る大人がたくさんいた	**＊子どもたちの遊び場** **＊地域のお祭りの衰退、縮小化** ＊昔ながらの行事が年々減っている ＊飯盛神社での交流はあるが、それ以外ではあんまり交流がない ＊おどり町が成立しない ＊愛宕市という伝統が守られていない ＊隣近所の関係の希薄化 ＊調味料を貸借するような関係性がない ＊地域住民が興味を持っていない ＊学生が地域を知らない ＊大学と地域との距離が難しい ＊「文教地区」なのに関りがない ＊大学を作る意義を理解していない ＊相浦出身の学生が意外といない ＊県立大学の学食や 2F カフェは、誰でも使っていいが入りにくい雰囲気がある

≪将来に向けた提案や要望≫
＊声掛けからつながりが始まる ＊日常からの交流➤ラジオ体操きっかけ **＊愛宕市を昔のように活性化したい** ＊祭りの時に相浦港から通行止めしたい ＊地域間交流も昔はもっとやっていたのを復活させたい （例：昔は、相浦地区 vs 大野地区の合同運動会もやっていた） **＊学生と地域との交流** ＊学生からアイデアを出す（動きやすい場、相浦西郵便局前の幼稚園など） ＊学園祭（鵬祭）の活用 （例：鵬祭の時に小学生や幼稚園生の合唱などを入れる➤自然と交流が生まれる） ＊大学を入りやすい雰囲気にする ＊大学図書館を活かす ＊大学生が勉強を教える場 ＊（県立大学）学食の開放感がほしい ＊不登校の子を受け入れるフリースクールのようなものを大学がしても面白そう。 ＊若者だけって場所をつくる ＊農業倉庫の活用

■テーマ２「食（農業・漁業)」

≪良いところ≫	≪課題点、改善が必要なところ≫
＊魚が美味しい ＊自慢の野菜（枝豆、とうもろこし、オクラ、ゴーヤ等）	**＊担い手の高齢化** **＊耕作放棄地が大変** ＊無農薬は管理が大変 ＊あまり産物が安くない（直売のもの） ＊値段の設定方法 ＊天候に左右されやすい
≪将来に向けた提案や要望≫	
＊スマート農業の推進（跡地の利用） ＊学生との農業体験 ＊農業体験、作った野菜を大学で売ったり、学食で使う ＊ブルーベリージャムづくり ＊大学に農学部を誘致する（農学系サークルを含む）	

■テーマ３「仕事・雇用」

≪良いところ≫	≪課題点、改善が必要なところ≫
	＊バイトがない
≪将来に向けた提案や要望≫	
＊バイト先等、交通費支給のところが欲しい ＊インターンの交通費を大学が全学負担してくれる	

■テーマ４「防災・安全」

≪良いところ≫	≪課題点、改善が必要なところ≫
＊地震がこない	**＊水害に弱い** ＊相浦川の氾濫 ＊エレナの前でも暗い
≪将来に向けた提案や要望≫	
防災力の強化、災害に強いまちづくり	

■テーマ５「健康・スポーツ」

≪良いところ≫	≪課題点、改善が必要なところ≫
＊自転車が多い地区	

■テーマ６「交通・生活利便性」

≪良いところ≫	≪課題点、改善が必要なところ≫
＊生活するのには困らない ＊西肥バスのアプリは便利（バスの遅れもわかる） ＊軽便鉄道	＊高速道路四車線化での渋滞を懸念 ＊バスの無料パスがあっても便が少なく、使い勝手が悪い ＊バス（夜の便）が少ない ＊街に行かないと楽しめない
≪将来に向けた提案や要望≫	
＊高齢者の方の生活利便性を高める	

＊学割が欲しい！ ＊大学駅の場所を移動する ＊カラオケが欲しい

■テーマ７「自然環境・歴史文化」

≪良いところ≫	≪課題点、改善が必要なところ≫
＊愛宕山 （シンボルは愛宕山、ランドマーク） やっぱり愛宕山、きれいな愛宕山、沖田から見た愛宕山が最高。いろんな道から愛宕山に登れた!! etc.） ＊潮風が気持ちよい ＊海という水路 ＊神社信仰（自然信仰） ＊信仰（海川）と和田津美神社 ＊天満宮があった ＊（相浦川の）飛び石➤歴史・自然 ＊太陽（陽）が長い ＊水族館がある ＊平たん、見通しが良い	＊赤潮と磯焼け ＊道端の雑草問題
≪将来に向けた提案や要望≫	
＊相浦川の存在をもっと知ってもらう ＊「水」「川」（相浦川）を活かす ＊山、相浦谷の活用 ＊農地と相浦川の間のウォーキングロードづくり ＊田んぼアート ＊道の雑草の有効活用 ＊植林・植樹活動 ＊潮干狩り体験 ＊（相浦川周辺）飛び石でキャンプしたい	

○第２回ワークショップの特徴と傾向

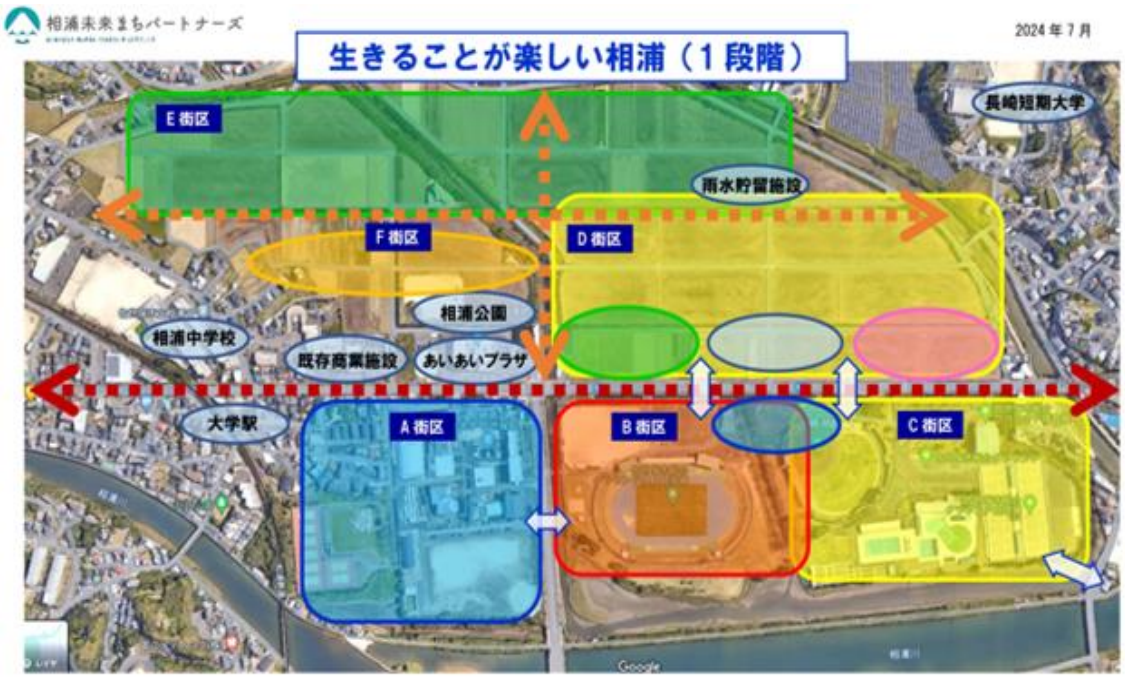
- 前回同様に、「愛宕山」に関しては、相浦地域のシンボル、ランドマークとして意見が多かったものの、テーマの深掘りの中では「教育（世代間交流、小中高校や大学との連携）」に関する内容に意見が多く集まった。地域コミュニティの視点からは、隣近所など地域内での付き合いや交流が衰退、縮小しているという意見があった。これに対して、愛宕市や愛宕祭等、地域のお祭りの活性化、大学と地域との連携や交流の強化に関する提案が多くみられた。具体的には、県立大学の学園祭（鵬祭）の活用、幼稚園や小学校との連携等の意見が挙がっている。

- 前回では意見の少なかった「農業」に関する意見も増えた。主な課題点としては、担い手の高齢化、耕作放棄地の管理などが挙げられる一方で、将来に向けた具体的な提案に関しては、学生との農業体験、農業体験で栽培した野菜の大学での販売や学食での活用、スマート農業の推進（跡地利用）に関する提案が出された。
- また、「自然環境・歴史文化」については相浦地区を象徴する愛宕山に関して多くの意見が寄せられたが、加えて、相浦川の存在をもっと知ってもらい、活かすことができるような発展的な提案、あるいは農地と地域の自然環境や景観を関連付け、新しい地域の魅力発信につなげていこうとする提案が含まれていた。

○参加者からのアイデア・マッピング

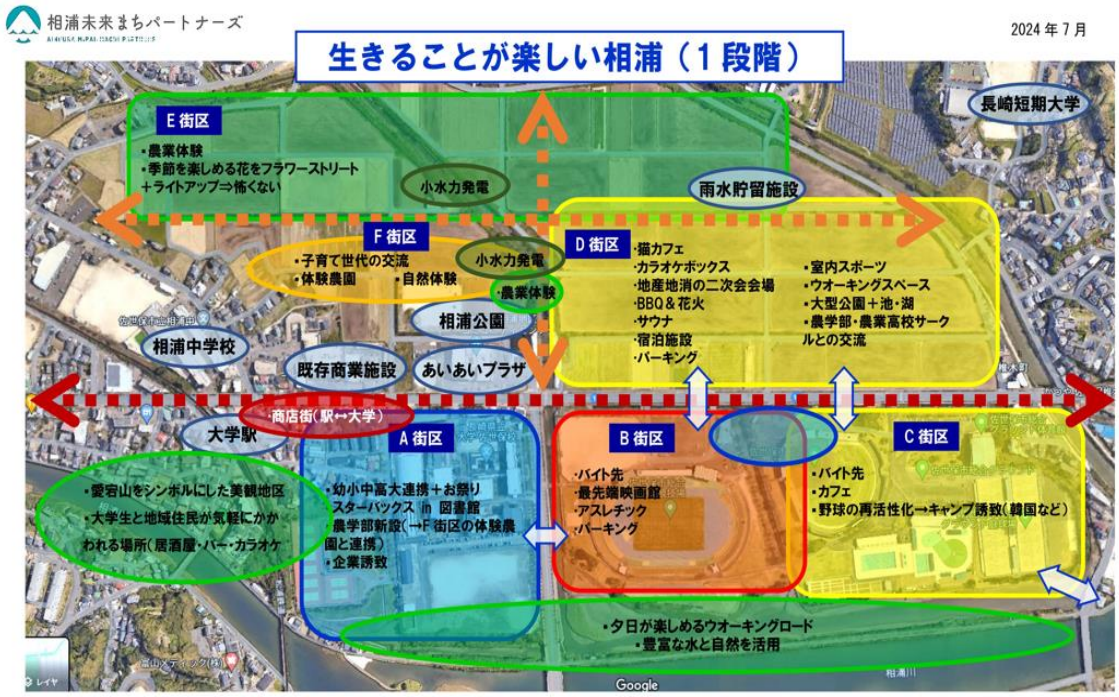
- 2回目のワークショップでは、最後に、相浦未来まちパートナーズが準備した相浦地区マップに参加者から「取り組んでみたいこと」「実現してほしいこと」の意見やアイデアを落とし込むマッピング作業を行った。

【図】相浦マップ（マッピング前）



- これまでに出てきた意見やアイデアを踏まえて、第2回ワークショップの最後には、「生きることが楽しい相浦」をコンセプトに、相浦未来まちパートナーズが独自にゾーニングを設定したマップに相浦地区で「取り組んでみたい」「実現してほしい」ことをマッピングで落とし込んだものが以下のマップである。

【図】相浦マップ（マッピング後）



【まとめ】

＊教育：幼稚園・小学校・中学校・高校・大学連携の取り組み（発表会、お祭り）

＊農業：農業教育高度化（農学部の誘致等）

＊産官学連携（起業、企業誘致）

＊体育・健康：全天候型スポーツ施設（室内スポーツ、アスレチック）、ハイキング（ウォーキング＋自然景観、愛宕山や相浦川を活かす）、スポーツツーリズム

＊その他：アグリツーリズム（農業体験＋地産地消）、多世代交流（大学生と地域住民、子育て世代）、まちモール（住まい手の利益に貢献する商業集積）

- 全体的な傾向として、県立大学周辺のA街区では文教地区としての強みを活かし、学校間の連携・交流が促進されるような取り組みや大学図書館の活用、大学への農学部誘致や企業誘致に関する提案があった。
- 次に、B街区やC街区では、学生のバイト先の確保にもつながる施設の希望、総合グラウンドエリアでは、アスレチックやスポーツツーリズムを通じた活性化を望む意見が出された。
- 現在、農地であるD街区では、休耕地等を活かした娯楽施設や宿泊施設等への転用を提案する意見も出た。さらに、自然や景観を活かしたウォーキングスペースや大型公園の整備、広い土地を活かしたアクティビティに関する提案がなされた。
- E街区では、農業体験、フラワーストリートやライトアップ等、季節を楽しめる景

観整備、F 街区では、子育て世代の交流、自然体験や体験農園等、体験型の教育や交流の場として機能させるという提案があった。なお、D～F 街区においては、「農業体験」が共通する提案内容となった。

- 最後に、ゾーニングの仮設定を行った街区以外では、愛宕山を臨む相浦川流域の景観を活かしたウォーキングコース等、豊富な水と自然を活かしたいという提案や、そこでの地域住民と学生とが交流できる場所がほしいという提案があった。

○第 2 回ワークショップの様子

○今後の課題

- 今回、全 2 回のワークショップを通じて、様々な世代や異なる職種である相浦地区に住む住民、大学で学ぶ学生として、世代・職種を超えた交流や対話ができたことに対して「勉強になった」「楽しかった」という感想も寄せられた。
- しかしながら、相浦地区も少子高齢化・人口減少、地域の産業の担い手不足の中で、より持続可能な地域づくりを進めていくためには、住民（市民）の主体的な参加、地域内外の多様なステークホルダーとの連携・共創が求められる。
- この点で、市民参加・協働という観点から見ると、今後以下のような課題にも対応しつつ、取り組みを継続させていく必要があると考える。

① 参加者の多様性・包摂性の向上

- 長崎県立大学の学生を含め若い世代の参加が一定程度みられたが、働き盛りの現役世代、特に 20～40 代の参加、女性の参加者数確保は課題である。

- 今後は相浦地区の子育て世代、自衛隊員とご家族、地元の中学生や高校生、また、今回参加できなかった長崎県立大学の教職員等、相浦地区において仕事や生活に様々な形で関わっている多様な層を巻き込んだ意見やニーズの把握等が望まれる。

② 「相浦」の定義・範囲

- 全2回のワークショップを通じて、議論の中で、話し合いの対象地域である「相浦」の地理的な範囲や認識についても参加者間で認識の違いがみられた。
- 今回は県立大学、総合グラウンド、農地周辺をコアゾーンに設定したため、近隣の日野エリア等との関連付け、より広域的に西九州させぼ広域都市圏や長崎県北地域との地域間ネットワークにおける「相浦」というエリアの位置づけ、参加者間での共通認識の確立も今後は求められるだろう。

③ 成果の可視化、地域還元

- 今回は2回のワークショップを短期間で開催したこともあり、地域でも周知や関係者の巻き込みが不十分な点も否めない。そのため、今回は参加できなかった住民や潜在的に相浦地区に高い関心を寄せるステークホルダー向けにも、ワークショップの成果を記録し、情報発信していくことも求められる。
- 次回以降は、近年国内でも実践例が増えつつあるICT・デジタルツール等のテクノロジーを活用した議論の可視化（例：加古川市decidim、壱岐市liqlid等）を通じ、遠隔地や時間的に制約のある住民にも配慮し、オープンにしていくことで議論の活発化や具体的なアクションに向けた機運を高めていくことも考えられる。
- 地域に還元し、今後の継続的な取り組みにつなげるためには、イベント的な一時のワークショップで終わらせず、その後も継続的に住民とコミュニケーションを図ることで、長期的な信頼関係を築くことが重要となる。
- 例えば、定期的な進捗報告会やフォローアップ会合を開催し、住民に最新情報を提供するとともに、継続的に意見を収集する仕組みを構築する。特に、プロジェクトの重要な節目ごとに報告を行い、透明性を維持する努力も必要となる。

④ 運営側のスキル向上、地域における人財育成

- 全2回のワークショップで、時間超過や大きなトラブルもなく終えることができたが、より効果的かつ効率的な話し合いの場づくり、地域住民から多様かつ画期的な意見を引き出す上でも主催・運営側である相浦未来まちパートナーズの関係者でのスキル向上も必要となる。
- その中で、相浦地区は長崎県立大学が立地していることから、まちづくりや地域でのボランティア活動等に関心の高い学生を巻き込んで、大学を拠点に学生ファシリテーターの養成等、地域に貢献できる人材育成を図っていくことも大切であろう。

5　概況分析の詳細

5.1　文教施設の立地状況

【文教施設の立地状況】

■小学校（５か所）
相浦小学校、相浦西小学校、日野小学校、高島分校、大崎分校
■中学校（２か所）
相浦中学校、日野中学校
■高　校（２か所）
九州文化学園高等学校、佐世保実業高等学校
■短　大（１か所）
長崎短期大学
■大　学（１か所）
長崎県立大学佐世保校
■特別支援学校（１か所）
佐世保特別支援学校

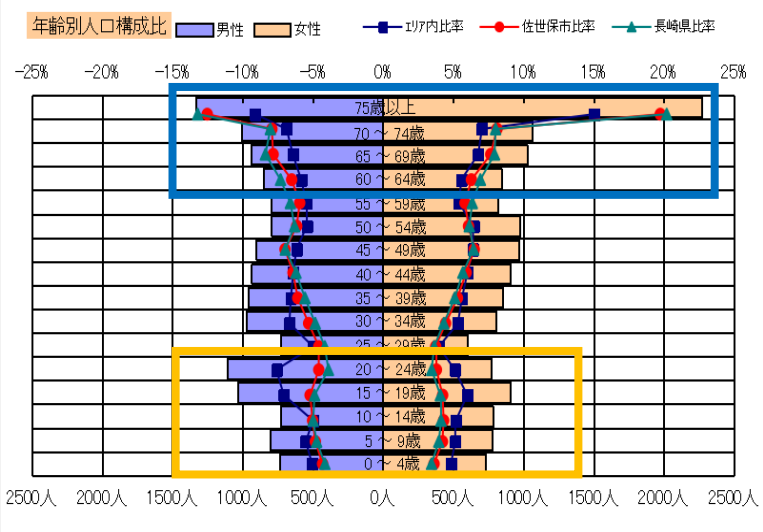
■幼稚園・保育園（１１か所）
相浦幼稚園、東相浦幼稚園、日野幼稚園
相浦保育園、すみれ保育園、新田保育園、椎木保育園
日野保育園、大崎保育園、上相浦保育所、高島保育所

■総合運動公園（１か所）
佐世保市総合グラウンド

【計：２４か所】

5.2　人口・人員別世帯構成比

【人口(令和２年)】
佐世保市や長崎県全体と比較すると調査エリアの人口は 15～24 歳を中心とした若年層の割合が高く、60 代以上の割合は低い。

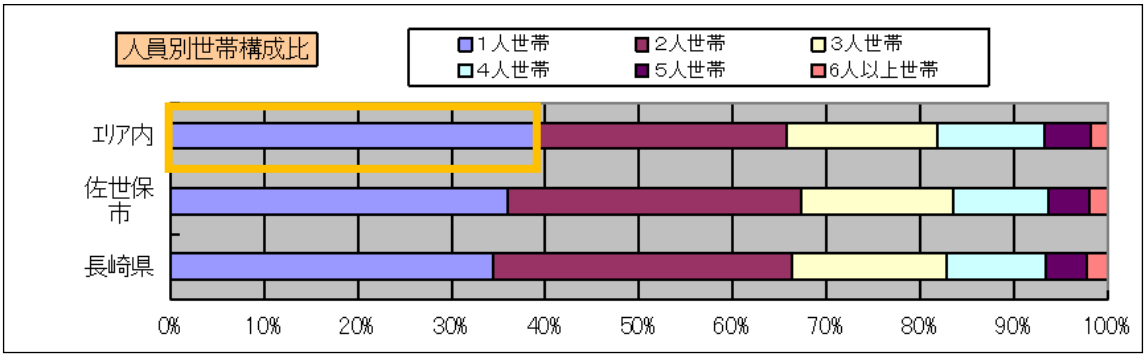


■相浦地区・佐世保市・長崎県の年齢別人口構成比(J-statMap を用いて作成)

- 人員別世帯構成比(令和２年)

  相浦地区は佐世保市や長崎県全体と比較して１人世帯の割合が高い。

  ２人世帯の割合は低いが、３人以上世帯の割合は他エリアとほぼ変わらない。



■相浦地区・佐世保市・長崎県の年齢別人口構成比(J-statMap を用いて作成)

- 分析まとめ

  相浦地区は 20～24 歳を中心に若者が多く、60 代以上の高齢層は低い状況にある。また、１人世帯の割合が高く、学校や幼稚園などの文教施設も多く立地していることから、19 歳以下の子どもがいるファミリーや長崎県立大学の学生が多く居住していると推測される。

5.3　長崎県立大学及び学生の状況

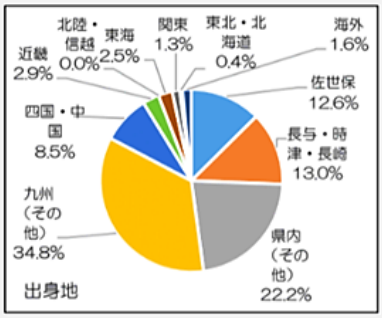
異文化交流の地・長崎ならではの、地域性と国際性を兼ね備えた大学

佐世保校（佐世保市）とシーボルト校（西彼杵郡長与町）の２つのキャンパスからなる大学で、令和6年度は教員148名、学部生3086名（佐世保校1879名）が在籍。新しい時代に挑戦し続ける人材の育成を核として、**地域を創造し持続可能な地域づくり**に貢献し、**地域の未来を拓く拠点**となっている。古くから海外に開かれた長崎の歴史・文化・地理的特性を背景に、この地ならではの実践的な学びを展開し、**国際性と地域性を兼ね備えた人材を数多く輩出**している。

参照：https://sun.ac.jp/guide/　長崎県立大学HP

学生の約半数は県内出身、8割以上が九州出身

令和５年度に経営学部・地域創造学部・地域創生研究科の2年生以上の学生を対象に実施されたアンケートによると、学生の出身地は、佐世保12.6%、長与・時津・長崎13.0%、県内22.2%、九州34.8%、九州外17.2%となっている。**約半数が県内出身、3割が九州出身で、全体の8割以上の学生が九州出身**である。

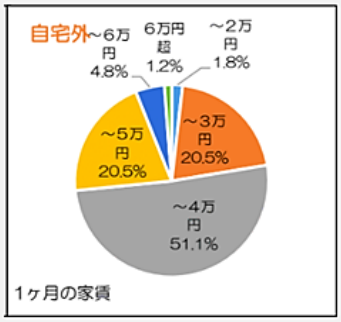


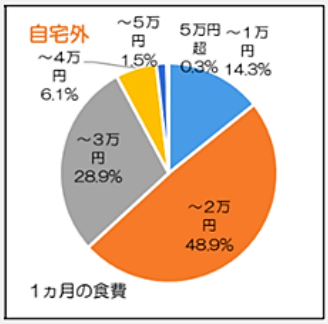
参照：令和5年度長崎県立大学学生生活実態調査・
魅力ある大学づくりのためのアンケート報告書

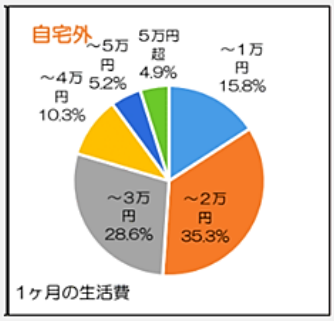
県大生の経済状況

大学近辺である相浦地区に住んでいる可能性が高いと考えられる「自宅外学生」について、１ヶ月のお金の使い方は

・家賃は、3~4万円が51.1%
・生活費は、1~2万円が35.3%
・食費は、1~2万円が48.9%
となっている。







他学部と比べて、経営学部と地域創造学部の学生は福岡県内で就職する割合が高い

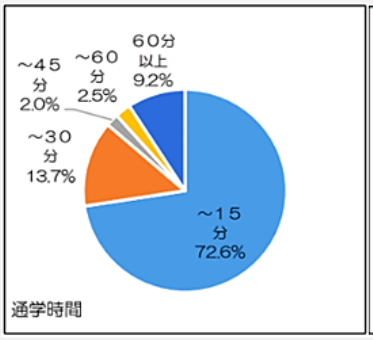
＜長崎県内で就職＞
経営学部30%、地域創造学部40%、
国際社会学部43%、情報システム学部34%、看護栄養学部40%

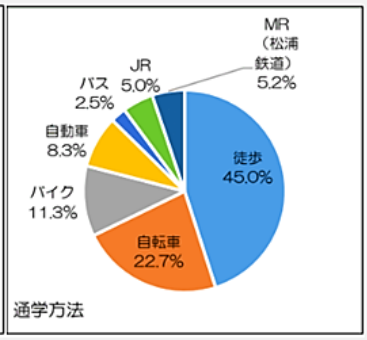
＜福岡県就職＞
経営学部25％、地域創造学部21％、
国際社会学部11%、情報システム学部4%、看護栄養学部19%。

＜経営学部生の就職先＞
サービス業、情報通信業・運輸業・郵便業、卸売業・小売業の割合が、それぞれ20％前後
＜地域創造学部生の就職先＞
公務の割合が高く38％

県大生の通学時間・方法

大学から15分以内に居住する学生が70%以上を占め、徒歩・自転車での通学が多い。





県大生の生活行動のパターン想定

パターン①
普段は自転車を使って移動し、スーパーなどの日常生活は10分圏内で済ませる。

パターン②
大学付近のに居住し、徒歩通学。
日常の買い物は大学付近のスーパーで済ませる。

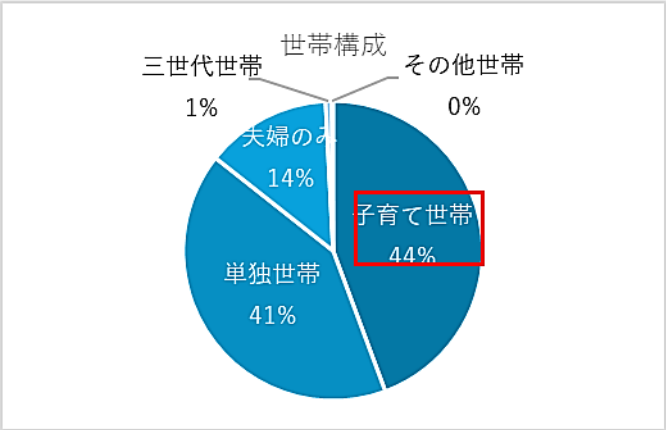
パターン③
日野地区に居住し、大学へはバイクで通い、日常の買い物は近所のスーパーで済ませる。

大学周辺に学生の住むアパートが集積し、経済状況と合わせて考えると学生は大学周辺を主な生活圏内としており、普段の食事や買い物等も相浦エリア内で済ませている可能性が高いと考えられる。

また近年の路線バス等の公共交通機関の相次ぐ値上げが、学生を中心市街地から次第に遠ざけてしまっている状況が推測される。よって、大学周辺にアルバイト先がほしいとの意見が増加している状況。

5.4　陸上自衛隊相浦駐屯地の状況

- 相浦駐屯地に本部を置く水陸機動団は 11 の部隊から成る隊員 2100 名によって構成され、全国で唯一の上陸作戦の専門部隊として平成 30 年の創設以降、日夜活動している。その役割は日本版海兵隊とも言われ、島嶼を占領された場合、速やかに上陸・奪回・確保するための本格的な水陸両用作戦を行う。
- 年齢構成→20 代：740 名、30 代：840 名、40 代：410 名、50 代：110 名



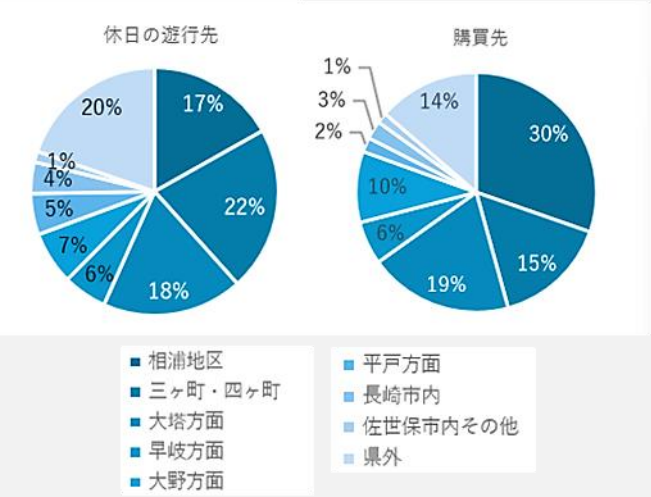
自衛隊員の世帯構成

子育て世代の割合が4割

相浦駐屯地で活動する水陸機動団員に対して行った調査によると、隊員の世帯構成は**子育て世帯が44%でもっと多い。**

またこの子育て世帯全体での**子どもの数は合計1,600名となっている。**

参照：水陸機動団調査



隊員の「休日の遊行先」「購買先」から予想される行動パターン

予想パターン①
普段の買い物は相浦地区で済ませ、休日は県外や、佐世保駅付近まで遊行する。

予想パターン②
普段の買い物も休日の遊行も相浦地区内で行う。

参照：水陸機動団調査

● 分析まとめ

相浦駐屯地に所属する隊員について、子育て世帯の割合が 4 割と最も多い状況である。また、隊員の普段の過ごし方として、普段の買い物は相浦地区で済ませ、休日は県外や佐世保駅付近まで遊行する場合が多いと予想される。

相浦地区自治協議会・相浦未来まちパートナーズの相浦駐屯地訪問、意見交換会を開催。

○相浦地区のまちづくり検討に係る水陸機動団アンケート調査（令和 6 年 5 月 28 日）

【商業施設】
大型商業施設（イオン、コストコ、イケア、ゆめタウン等） 大塔、東部地域に集中し、渋滞が発生している。相浦地区には県立大学など各種文教施設や相浦駐屯地もあり、一定の若年人口や子育て世代が住み続けるエリアにもかかわらず、カラオケや子育て用品店などがない。中高生以上の遊び場やたまり場が存在しない。車で買い物に数十分の時間をかけて移動しなければならず、買い物で休みの時間を費やしている。 キッザニア、アウトドア、マック、スタバ、飲食店街などの誘致。 子どもを預けてショッピングができる複合商業施設（屋内外遊び場） 相浦駐屯地周辺へのビジネスホテルの誘致 記念行事等への訪問者や来客が宿泊できる場所がない。今後は他地域の部隊や多国籍軍との訓練も想定され、宿泊需要は増加していくと考えられる。
【医療施設】
小児科や産科、整形外科の誘致 子育て世代が多く、里帰り出産時の育休制度にも課題がある。訓練中に負傷する隊員も多く、駐屯地近傍に整形外科が不足している。
【教育施設】
ドローン学校、英会話教室、自然から学ぶ教育施設（キャンプ施設） 大型図書館の整備、長崎県立大学図書館の貸し出し（現在は閲覧のみ） 駐車場のない相浦児童センターにかわる屋内広場など
【娯楽施設】
映画館、温浴施設、ラウンドワン、フィットネスクラブ、プール施設 テーマパーク、可変式リードクライミングウォール、BBQ 場 総合公園、釣り公園、公園遊具の充実（相浦公園へ大型遊具の整備）

【居住施設】
3LDK 以上の賃貸物件、駐屯地近傍への高層マンションの誘致 小学生以上の子どもが2人以上いると3LDK のアパートが望ましい。官舎の受け入れにも限界があり、相浦周辺に居住環境が不足していることから通勤に苦労している隊員も多い。託児所併設型などもどうか。 市営・民間駐車場の整備 自衛隊官舎は1世帯1台分しか駐車場を借用できないため、2台以上所有している場合は民間駐車場に契約するが駐屯地近傍に少ない。
【交通機関】
相浦地区に高速バス乗り場の整備、路線バスの便数増加（佐世保方面等） 相浦地区内の無料巡回バスの運行、駐屯地近傍に松浦鉄道の駅を整備
【道路状況】
県道１１号線、相浦川沿いの歩道に街灯を整備してほしい。 相浦地区は総合グラウンドと農地が真っ暗で文教エリアとは言い難い。
【その他・イベント開催】
ビアガーデン、野外コンサート、フェスティバル等のイベントの増加

5.5　西九州自動車道の整備状況

- 西九州自動車道（佐々IC～武雄南 IC）4 車線化

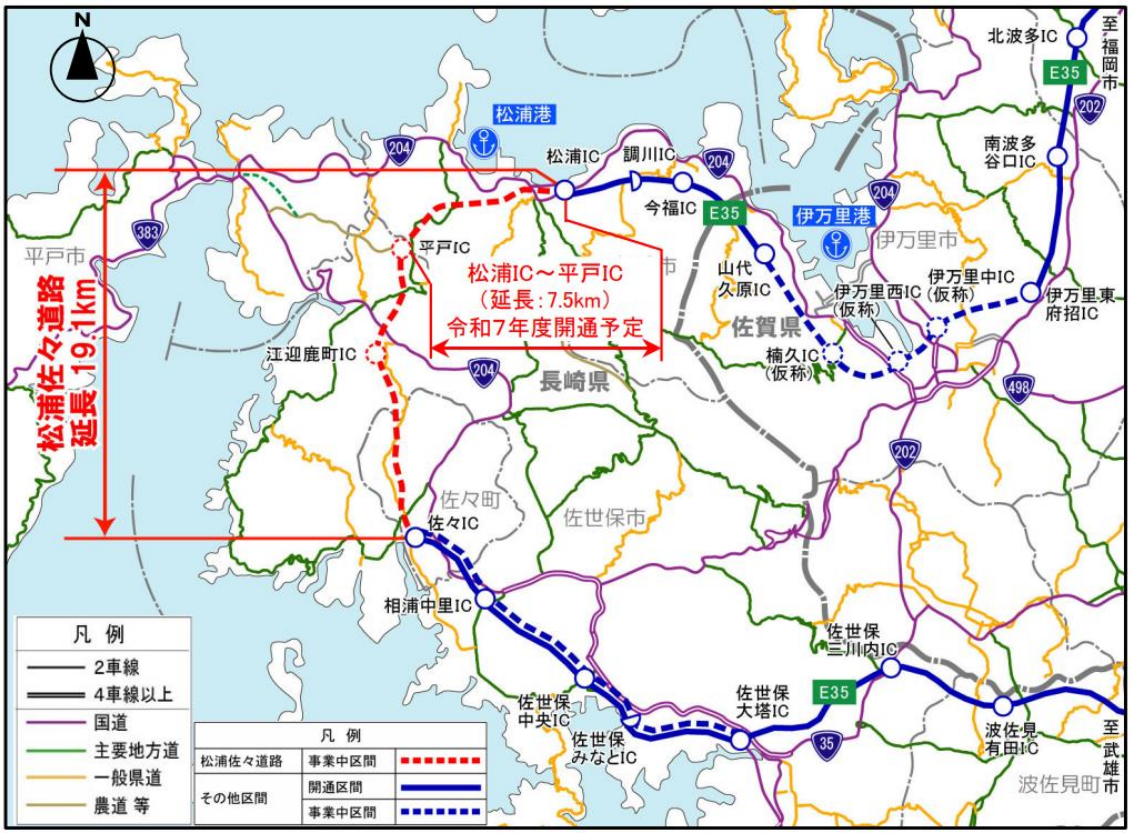
  供用中の西九州道（佐世保道路・武雄佐世保道路）佐々IC～武雄南 IC 間のうち、約 21.5 kmを 2 車線から 4 車線へ拡幅する事業。

  佐々IC～佐世保大塔 IC の区間において、4 車線化されることにより交通安全の向上が図られ、防災面では地域との連携により重要な役割を果たし、観光や流通の面においても地域の活性化や利便性の向上に大きく貢献することが期待される。

出所）NEXCO 西日本の HP より

● 西九州自動車道（国道 497 号・松浦佐々道路）の延伸事業

松浦佐々道路は、西九州自動車道の一部を構成する路線であり、長崎県北部に位置、九州北西部の広域的な連携を図り、地域の活性化に大きく寄与するとともに、北松地域唯一の幹線道路である国道 204 号の代替路線としての機能も有する。



出所）九州地方整備局長崎河川国道事務所の報道資料より

5.6　農地高度利用可能性調査分析業務報告書（佐世保市農政課・R4,2）より一部抜粋

スマート農業導入の可能性（相浦土地改良区）

【相浦土地改良区における課題と農地の高度利用の可能性】

○課題

改良区の現状として、高齢化や後継者不足により耕作放棄地化が進行し、一部では水稲、飼料用作物等に利用されている農用地はあるものの、償還が終了していることなどから、改良区の存在意義が希薄化し、活動の維持が困難なことから、令和2年4月の総会（書面議決）で令和4年3月をもって解散することを議決されている。

市は改良区の解散を安易に認める考えではないが、解散について議決されていることから、これにかかる事務手続きを進めるにあたっては協力していく考えである。

改良区の解散については、土地改良施設（揚水機場・農道等）の譲渡先を決定するなど解散要件を満たす必要がある。

○農地の高度利用の可能性

当該土地改良区の農地は優良農地という位置づけであり、大型機械（高性能機械）の導入が可能である。

今後、当該農地の高度利用の可能性について、コンサル等に調査依頼の予定。（令和3年度）

○相浦土地改良区　概要

【設立】平成3年7月19日
【事業年度】平成3年度～平成7年度
【事業面積】34ha
【組合員数】140名

11

○分析（まとめ）

- 令和３年度、相浦土地改良区をモデル地区に佐世保市農政課によるスマート農業導入の可能性調査が行われた。現状は、一部で水稲、飼料用作物等に利用されている農用地はあるものの、高齢化や後継者不足により耕作放棄地化が進行している。
- 牧草に係る賃料は 10 アールあたり４万円、改良区としてはこの賃料を下回る金額での貸与は困難との考えがある。
- 地権者の意向としては、相浦土地改良区は全国的にみると規模が小さく生産効率が悪い、後継者不足もあり、農業を展開することは厳しい、土地改良法が改正されるタイミングで改良区を解散して新しいまちづくりに挑戦したい、農業は残すが時代のニーズにマッチした発想での一体的な活用が必要との声が大きい。
- 次世代型施設園芸等の新たな農業を導入する場合も、地権者の集約、高床式または農地の嵩上げや地権者との賃料等、企業参入の条件について調整を図る必要がある。

第６章　農地高度利用の可能性検討

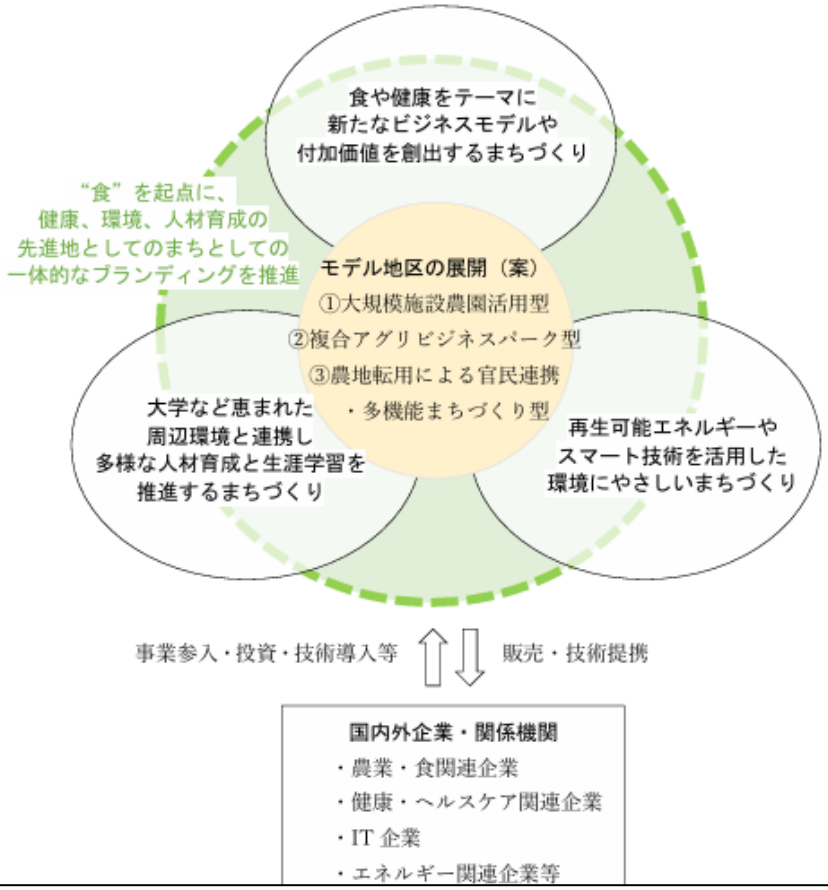
1. 農地高度化に向けた基本的な考え方

これまでの調査を踏まえ、本モデル地区の農地高度利用を図るための基本的な考え方を以下のとおり提案する。

- モデル地区の土地利用という概念を超え、相浦地区全体のブランディングと考える
- ブランディングの中心に“食”を位置づけ、周辺施設や域内外の企業と連携しつつ、農業に加え、健康や環境、教育、福祉などの多様なまちづくりを展開する
- スマート技術はモデル地区の農業高度化に加え、相浦地区全体の環境負荷の低減や暮らしの質の向上のためのツールとして導入を図り、最終的にはまち全体のスマートシティ化を目指す

以上の考え方を実現するためのモデル地区の活用パターンを次頁に示す。

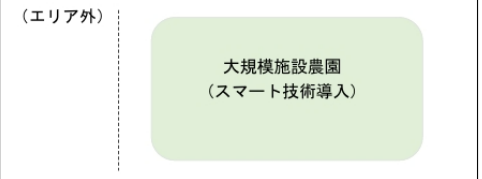
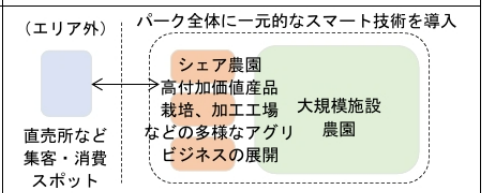
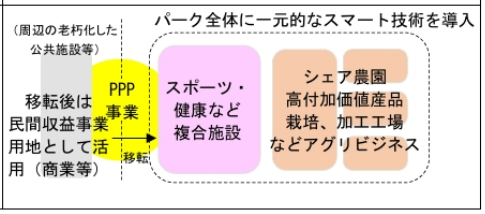
モデル地区を起点とした相浦地区全体のまちづくりの展開イメージ



- 報告書の中では、相浦地区のポテンシャルとして、まとまった人口規模と商圏人口、広域交通アクセスの利便性の高さ、長崎県立大学との隣接性、スポーツ施設やコミセン等の公共施設との隣接性、周辺における多様な事業者の立地等が挙げられた。
- 農地高度化の展開パターンの提案の中では、③の農地転用による官民連携・多機能まちづくり型を求めている地権者が多い。

2. 農地高度化の展開パターンの提案

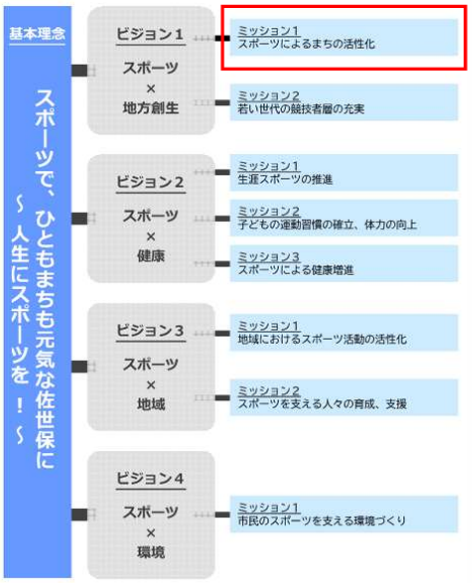
これまでの調査を踏まえ、本モデル地区の高度化を図るための土地利用の活用方策を以下のとおり提案する。

高度利用パターン		方向性	前提条件・課題	導入機能イメージ
アグリビジネス展開モデル	①大規模施設農園活用型	・コアとなる農業事業として、高設栽培方式の高機能ハウスによる大規模ファームを形成。 ・全量買い取り契約による高付加価値産品の栽培による安定経営をめざす。	・借地料の調整 ・民間投資への支援 ・大規模雇用の確保 など	
	②複合アグリビジネスパーク型	・現行土地利用の範囲内で①のコア事業を中心に、関連する多様な農業ビジネスを展開。 ・周辺用地に直売所など集客・消費スポットを整備し相乗効果の創出を図る。	・借地料の調整 ・民間投資への支援 ・大規模雇用の確保 ・シェアリング型スマート技術の導入に向けた各種調整など	
官民連携まちづくり展開モデル	③農地転用による官民連携・多機能まちづくり型	・一部農地転用による農業以外の機能の導入を含めた複合的なまちづくりの展開。 ・食をテーマに農業、スポーツ、環境、教育、福祉などの多様な分野との連携によるビジネスやサービスの創出を図る。	・農地転用手続き ・本市都市計画との整合　など	

5.7　佐世保市スポーツを活かしたまちづくりに資する施設整備に向けた基本調査におけるサウンディング資料（佐世保市政策経営課・R6,3）より一部抜粋

（3）佐世保市が目指すべき「スポーツを活かしたまちづくり」の戦略の整理

佐世保市スポーツ推進計画の４つのビジョンと関連するミッション



ミッション①　スポーツによるまちの活性化

（1）スポーツによるまちのにぎわいづくり	
施策内容	● アーバンスポーツなど佐世保らしいスポーツなどを活用したイベント開催 ● プロスポーツチームとの連携 ● スポーツコミッションとの連携
（2）全国大会、九州大会等の開催支援	
施策内容	● インターハイなどの大規模大会の開催への協力 ● スポーツイベントの際の観光物産との連携

今後の佐世保市のまちづくりの視点

「選ばれるまち　佐世保」

- 人口減少が進む中で交流人口や関係人口を増加させ、市内外問わずまちづくりに参画してもらえる人を増やしていく必要があり、その為には佐世保市が他都市よりも「選ばれるまち」であり続けることが重要。
- スポーツを活かしたまちづくりにおいても、他都市との差別化や競争の視点が肝要。

佐世保のアイデンティの創出につながるような
スポーツを活かしたまちづくりの戦略をつくりたい

（3）佐世保市が目指すべき「スポーツを活かしたまちづくり」の戦略の整理

追加ページ

＜現状分析＞

（1）佐世保市の特性
- 将来人口は減少の一途、特に若年人口が大きく減少

（2）佐世保市のスポーツを取り巻く環境、歴史・文化

＜外部環境＞
- 国を挙げてスポーツを活かした地域活性化の取り組みを推進
- スポーツに対する多様な価値観や新たなスポーツの出現
- VR/AR等の技術発展により、多様なスポーツの楽しみ方が進展

＜内部環境＞
- 多様な人・文化等を需要しやすい環境、アーバンスポーツの浸透

（3）市内スポーツ関連施設と廃校等の状況
- スポーツ施設の全体的な老朽化、今後活用が見込まれる廃校は3校

（4）関係団体ヒアリング結果
- 指導者確保や運営の負担
- 施設の改修や大会開催可能な施設の要望

＜先進事例＞

- アーバンスポーツ施設整備による若者及び広域からの集客
- 複合化したスタジアム整備による地域の賑わい創出の取組
- アーバンスポーツ施設を中心とした複合機能整備による集客事業
- 官民連携による体育館整備を契機としたスポーツチームとの連携
- プロサッカーチームと連携した地域活性化と地域住民の活動拠点整備
- プロサッカーチームによる地域振興・まちづくり
- 陸上競技に特化した合宿誘致
- 文化×スポーツによる地域への誘客と地域ブランドの強化
- 老朽化施設の改修と魅力的なソフト事業を組み合わせた合宿ビジネス

＜佐世保市スポーツ推進計画＞

ミッション：スポーツによるまちの活性化

（1）スポーツによるまちのにぎわいづくり
- アーバンスポーツなど佐世保らしいスポーツなどを活用したイベント開催
- プロスポーツチームとの連携
- スポーツコミッションとの連携

（2）全国大会、九州大会等の開催支援
- インターハイなどの大規模大会の開催への協力
- スポーツイベントの際の観光物産との連携

上記調査から、主要キーワードをピックアップ

若者　アーバンスポーツ　スポーツチーム　合宿　大会

３つの戦略を抽出

戦略１　スポーツを活かした若者を中心とした賑わいづくり

戦略２　スポーツチームをコンテンツとしたシティプロモーション

戦略３　合宿や大会誘致による市内外からの集客

19

（3）佐世保市が目指すべき「スポーツを活かしたまちづくり」の戦略の整理

戦略１　スポーツを活かした若者を中心とした賑わいづくり

① 様々なアーバンスポーツ拠点の整備
② 若者を中心に、多様な世代が多様に活用できる空間の創出
③ 遊びの要素を多く盛り込んだ施設整備

ねらい：アーバンスポーツをはじめとする多様なスポーツやエンタメ活動を通じて、市民に社会的価値を生み出し、まちに賑わいを創出する

戦略２　スポーツチームをコンテンツとしたシティプロモーション

① スポーツチームのクラブハウス・練習拠点の確保
② スポーツチームの試合の実施、地元客による観戦
③ スポーツチームによる地元の子ども・若者への指導
④ ②及び③の収益によるスポーツチームの強化・拡大

ねらい：スポーツチームの成長と二人三脚でまちのアイデンティを育み、「観る」（応援する）と「する」（地元の子ども・若者のスポーツ育成・強化）のスポーツによる好循環を創出する

戦略３　合宿や大会誘致による市内外からの集客

① 合宿や大会ができるグラウンドの確保
② 合宿や大会にシナジーのある、スポーツの教育機関やクリニックの整備
③ 既存の総合グラウンドの野球場や陸上競技場の活用
④ 合宿や大会誘致を推進するスポーツコミッションの立ち上げ

ねらい：既存のスポーツ施設を有効活用しつつ、スポーツコミッションなどによる合宿や大会の開催を推進するとともに市内のスポーツの強化につなげる

（4）戦略に応じた総合グラウンドの再整備の方向性の整理

総合グラウンドの概要

施　設　名	竣工・改修年	規　　約
体　育　館	昭和56年竣	延べ床面積：1,871㎡（競技フロア面積987㎡） ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ2面・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ2面・ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝ6面・卓球18台
プ　ー　ル	昭和43年　50mプール竣工 昭和45年　幼児プール等竣工 平成10年　ｳｫｰﾀｰｽﾗｲﾀﾞｰ竣工	50m　9コース　　25m　7コース 幼児プール　1池　　子供徒歩池他　4池 ウォータースライダー　3レーン
庭　球　場	昭和43年竣工 **平成23・24年全面改修**	砂入り人工芝コート16面　　スタンド テニス壁打練習場（延長：42.5m）
アーチェリー 競　技　場	昭和56年竣工 **平成16年全面改修**	フィールド面積：2,640㎡ 的場　14的
野　球　場	昭和54年竣工	―
陸上競技場	昭和46年フィールド竣工 昭和48年メインスタンド竣工	―
運 動 広 場	昭和53年竣工	―

（4）戦略に応じた総合グラウンドの再整備の方向性の整理

戦略１　スポーツを活かした若者を中心とした賑わいづくり　再整備イメージ

サンガスタジアム併設のクライミングウォール、eスポーツゾーン、VRフィットネスゾーン、３×３コート

エスコンフィールド北海道付帯の
屋内外大規模遊具
byボーネルンド

ムラサキパーク立川立飛のバーチカルランプ（屋外）とミニランプ（屋内）

MISSION PARKOUR PARK TOKYO のパルクール施設

TOKYO SPORT PLAYGROUND（期間限定。2022年9月閉園）のスポーツコート

立川経済新聞HP：https://tachikawa.keizai.biz/photoflash/2272/
サンガスタジアム by KYOOCERA HP：https://sangastadium-by-kyocera.jp/ancillary-facilities/sports-climbing、https://sangastadium-by-kyocera.jp/sky-field
MISSION PARKOUR PARK TOKYO HP：https://missionparkourpark.com/
とよすとHP：https://toyosu.tokyo/news/tokyo-sport-playground-closed/
：
https://www.city.chuo.lg.jp/a0035/kurashi/koutsuu/communitycycle/20221204gaiyo.html
リボビタンキッズ PLAYLOT by BørneLund：https://www.hkdballpark.com/shops/17/

（4）戦略に応じた総合グラウンドの再整備の方向性の整理

戦略２　スポーツチームをコンテンツとしたシティプロモーション　再整備イメージ

廃校を活用して整備した、行政施設とJ2「水戸ホーリーホック」のクラブハウスやグラウンドが一体化した施設（茨城県城里町）

熊谷総合公園内「さくらオーバルフォート」（左：宿泊棟、右：ラグビーリーグワン「パナソニックワイルドナイツ」のクラブハウス・屋内運動場）。練習の見学も可能

J1川崎フロンターレの育成拠点「Anker フロンタウン生田」。地域の集いの場、健康促進、青少年育成、災害時の一時避難場所、防災拠点としての機能も併設

墨田区総合体育館内でのFリーグ開催（フウガドールすみだ）

プロフットサルチームの選手とコーチからの直接指導！

当スクールは、Fリーグ（日本フットサルリーグ）のフウガドールすみだの選手とコーチが指導を担当しております。この墨田区総合体育館をホームコートとしている地元チームの選手とコーチから直接指導を受ける事ができるのが、当スクールの特徴の一つです。

墨田区総合体育館内でのフウガドールすみだによるスクール

公共R不動産HP：https://www.realpublicestate.jp/post/sports-2/
PR Times「さくらオーバルフォート」リリース記事：https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000053.000022927.html
「Anker フロンタウン生田」施設ガイド：https://ikuta.frontown.com/guides/
墨田区総合体育館HP：https://www.sumidacity-gym.com/
ほか

（4）戦略に応じた総合グラウンドの再整備の方向性の整理

戦略３　合宿や大会誘致による市内外からの集客　再整備イメージ

ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅の各種施設

金沢文化スポーツコミッション企画：コーラス大会参加者を対象とした金沢城での朝ヨガ（コーラス×ヨガ）

さいたまスポーツコミッション企画：さいたまランフェス

シティフットボールアカデミー：旧栃木市立小野寺北小学校を活用し、サッカー・フットサル専門学校に改修

J1鹿島アントラーズのスポーツクリニック（カシマスタジアムに併設）

富士通スタジアム川崎：アメフトスタジアムでのグラウンドゴルフ大会や、PKチャンピオンシップイベント（誰でも気軽に参加することができるPK合戦だけを行うイベント）の開催

ジャパンアスリートトレーニングセンター大隅：https://jatc-osumi.jp/
CTTY FOOTBALL STATION　HP：https://city-football-academy.jp/about/facilities/
鹿島アントラーズHP：https://www.antlerssc.com/

金沢文化スポーツコミッションHP：https://www.kanazawa-csc-kk.jp/support/support03/
さいたまスポーツコミッションHP：https://saitamasc.jp/business
富士通スタジアム川崎HP：https://kawasaki-fujimi.com/info/2024/01/

26

（４）戦略に応じた総合グラウンドの再整備の方向性の整理

官民連携事業方式のイメージ

- 現施設の改修、解体・新設等により整備。
- 事業方式は、スポーツ／エンタメ施設に関しては、定期借地＋民間事業、PFI、コンセッション、DB＋指定管理　等を想定。
- 付帯する商業施設等は、整備、管理運営とも民間事業者の独立採算を想定。

多様な資金調達の可能性

国等からの補助金、ネーミングライツ、クラウドファンディング、企業版ふるさと納税　等

事業スケジュール（案）

令和6年度	佐世保市「スポーツを活かしたまちづくり」戦略の決定
令和7～8年度	総合グラウンドの整備及び管理運営スキームの構築
令和9年度	事業者選定
令和10年度～	施設整備（改修・解体・新設等）
令和13年度～	開業

○分析（まとめ）

- 令和５年度、総合グラウンドの戦略的な再整備をはじめとした佐世保市スポーツを活かしたまちづくりに資する施設整備に向けた基本調査が、佐世保市政策経営課により実施された。
- 調査は、佐世保市の特性や他都市の事例等を考慮し、
  ① アーバンスポーツやｅスポーツをはじめとした遊びの要素を取り入れた「若者を中心としたにぎわいづくり」
  ② 本市にプロスポーツチームは存在しないものの、将来に向けてまちのアイデンティティーを育んでいけるチームと共にスポーツの好循環を創出する「スポーツチームをコンテンツとしたシティプロモーション」
  ③ 既存のスポーツ施設を有効活用した「スポーツコミッション等による合宿や大会の誘致」といった３つの戦略を仮定した上で、民間事業者に対し、それぞれの実現可能性や戦略に応じて、総合グラウンドの再整備を行う場合の参画意欲等についてサウンディングを実施している。
- スポーツを活かしたまちづくりによって、本市が選ばれるまちとなるために必要な視点として、ある競技種目に特化した施設整備を行うことや他都市にはない全天候型施設を整備して特色を出していくといったことが差別化のポイントになること、

また、単に施設整備などのハード面の取組のみならず、地域の競技団体、スポーツチーム、学校等のステークホルダーとの連携や地域の歴史や風土をバックボーンとしたストーリー性をつくり上げていくことが肝要である点が整理されている。

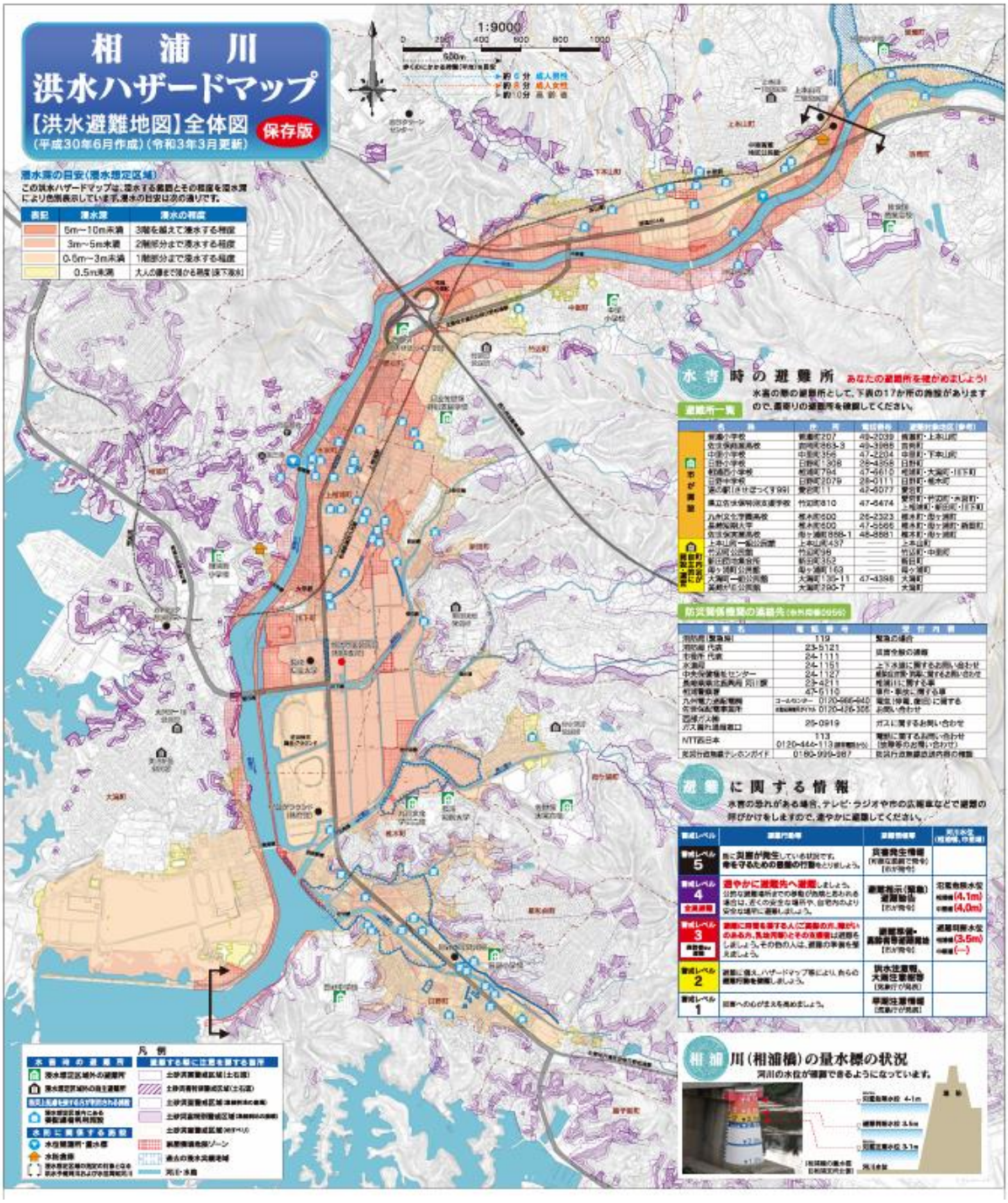
- にぎわいとまちづくりの視点からスポーツ施設の複合化については、飲食や物販、合宿誘致のための宿泊施設といった施設の複合化の他、既存のスポーツ施設をイベントやコンサートといった別用途で活用するといった機能の複合化のアイデアが確認できている。
- また、能登半島地震後の避難所としてスポーツ施設が活用されていることを見ても、有事の際の活用も想定する必要があり、同様の視点で民間事業者から太陽光発電や蓄電設備を備えることで、災害レジリエンスとカーボンニュートラルを推進するといったアイデアもあったことから、避難施設としての活用も視野に入れ検討すべきとの見解もある。
- さらに、総合グラウンドの公共交通アクセスを懸念する意見も存在したことから、中高生等のマイカーで来場できない世代の利用促進を図るためにも、交通事業者との連携も検討すべき要素である。
- 今後の佐世保市の動向としては、文化スポーツ部を中心に令和６年度から着手しているスポーツ施設の再編計画において、総合グラウンドに求められる機能の整理、財源調整等が図られていくものと思われる。

5.8　関係資料①：体育施設等利用状況（佐世保市スポーツ振興課・R6,4）より一部抜粋

体育施設等利用状況

		区分	令和元年度（決算）	令和２年度（決算）	令和３年度（決算）	令和４年度（決算）	令和５年度（決算）
総合グラウンド	庭球場	利用日数	354	325	325	354	352
		利用件数	6,446	5,382	4,748	5,376	4,965
		利用人数	**67,398**	**50,443**	**53,787**	**60,270**	**64,311**
		利用料金	7,830,190	6,438,270	6,426,370	7,556,430	7,827,560
		照明代	3,502,900	2,942,620	2,756,320	3,444,940	3,318,440
		その他実費	96,500	39,400	42,800	457,653	343,383
		収入合計	11,429,590	9,420,290	9,225,490	11,459,023	11,489,383
	プール	利用日数	68	27	53	77	71
		専用利用件数	6	4	4	8	15
		個人利用件数	46,215	9,558	18,677	27,309	40,505
		利用人数	51,231	9,558	19,487	29,306	42,639
		利用料金	14,719,930	2,818,540	5,553,830	8,657,580	15,215,120
		収入合計	14,719,930	2,818,540	5,553,830	8,657,580	15,215,120
	陸上競技場（スタンド含む）	利用日数	233	251	319	348	353
		専用・練習利用件数	225	33	399	657	660
		個人利用件数	45,521	29,703	62,111	78,881	72,491
		利用人数	**45,521**	**29,703**	**62,111**	**78,881**	**72,491**
		利用料金	2,999,410	2,407,030	3,334,900	4,488,750	4,183,970
		照明代	199,380	171,250	319,800	361,690	403,820
		その他実費	129,400	206,221	57,600	230,873	326,800
		収入合計	3,328,190	2,784,501	3,712,300	5,081,313	4,914,590
	運動広場	利用日数	258	260	252	277	277
		利用件数	547	551	609	590	553
		利用人数	45,125	39,682	27,160	109,405	25,448
		利用料金	733,360	645,990	621,600	736,690	696,680
		照明代	1,497,680	1,559,440	1,704,190	1,511,190	1,372,230
		収入合計	2,231,040	2,205,430	2,325,790	2,247,880	2,068,910
	アーチェリー競技場	利用日数	307	280	283	300	310
		専用利用件数	12	3	7	6	6
		個人利用件数	1,629	1,323	1,008	1,709	1,631
		利用人数	1,989	1,279	1,397	1,840	1,631
		利用料金	235,480	222,640	201,970	276,870	286,040
		照明代	3,288	1,148	192	600	144
		収入合計	238,768	223,788	202,162	277,470	286,184
	野球場	利用日数	202	249	244	263	312
		利用件数	295	86	413	422	487
		利用人数	**29,190**	**18,637**	**19,852**	**28,523**	**28,612**
		利用料金	3,053,540	2,981,220	3,020,440	3,734,640	4,348,770
		照明代	244,200	298,630	237,460	248,770	264,380
		その他実費	62,374	50,230	48,110	312,799	286,826
		収入合計	3,360,114	3,330,080	3,306,010	4,296,209	4,899,976
	体育館	利用日数	357	328	324	357	353
		利用件数	3,062	3,117	2,950	3,228	2,891
		利用人数	74,259	56,591	48,973	62,827	56,439
		利用料金	4,631,050	4,104,300	3,737,570	4,326,060	4,206,190
		照明代	753,225	614,055	610,665	769,115	760,350
		その他実費	29,200	138,893	16,000	161,311	141,771
		収入合計	5,413,475	4,857,248	4,364,235	5,256,486	5,108,311
	小計	延べ利用日数	1,779	1,720	1,800	1,976	2,028
		延べ専用利用件数	10,593	9,176	9,130	10,287	9,577
		延べ個人利用件数	93,365	40,584	81,796	107,899	114,627
		延べ利用人数	314,713	205,893	232,767	371,052	291,571
		利用料金	34,202,960	19,617,990	22,896,680	29,777,020	36,764,330
		照明代	6,200,673	5,587,143	5,628,627	6,336,305	6,119,364
		その他実費	317,474	434,744	164,510	1,162,636	1,098,780
		収入合計	40,721,107	25,639,877	28,689,817	37,275,961	43,982,474

5.9　関係資料②：相浦川洪水ハザードマップ（佐世保市河川課・H30,6）
より一部抜粋



6　作業部会等の開催状況（報告）

令和５年１１月１５日（水）第①回　　@長崎県立大学車教授研究室
１２月１８日（月）第②回　　@長崎県立大学管理棟（田中副市長）
２８日（木）第③回　　@長崎県立大学車教授研究室
令和６年　１月１５日（月）第④回　　@長崎県立大学車教授研究室
２月１３日（火）第⑤回　　@オンライン会議（Zoom 方式）
３月１４日（木）第⑥回　　@長崎県立大学車教授研究室
２７日（水）第⑦回　　@長崎県立大学車教授研究室
４月　２日（火）第⑧回　　@長崎県立大学地域交流棟
９日（火）第⑨回　　@オンライン会議（Teams 方式）
１０日（水）第⑩回　　@佐世保市役所（中間報告-宮島市長）
５月１３日（月）第⑪回　　@長崎県立大学車教授研究室
３０日（木）第⑫回　　@オンライン会議（Teams 方式）
６月２８日（金）第⑬回　　@オンライン会議（Teams 方式）
７月１２日（金）第１回相浦未来まちワークショップ　@長崎県立大学
２６日（金）第２回相浦未来まちワークショップ　@長崎県立大学
３０日（火）相浦地区と市長との車座集会　@あいあいプラザ
８月　８日（木）第⑭回　　@オンライン会議（Teams 方式）
２８日（水）第⑮回　　@オンライン会議（Teams 方式）
９月　４日（水）市提案　　@佐世保市役所
１１日（水）県提案　　@県北振興局

4/10 作業部会として宮島市長に相浦地区未来まちづくり構想検討に係る中間報告

7/30 宮島市長と相浦地区自治協議会との車座集会(M カフェ)における意見交換